# 思いや学んだことを伝える力を育む授業づくり

～「横手が舞台」学部間、学年間のつながりのある、
地域資源を活用した学習を通して（２年次／２か年）～

## 令和３年度　研究紀要　第４２集

小学部６年１組　生活単元学習
「スーパーわくわくテレビ４
にほんごでわくわく」

中学部３年２組　生活単元学習
「横手が舞台～野菜を育てよう②～」

高等部３年１組　生活単元学習
「I Love 横手に役立ち隊！
読み聞かせプロジェクト①」

秋田県立横手支援学校

令和３年度　研究紀要「第４２集」発刊

# はじめに

校長　　松井　克彦

横手支援学校では、昨年度から研究主題「横手が舞台」学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり～思いを伝え、人と関わる力の育成に注目して～を掲げ、２か年の研究に取り組みました。

昨年、各学部で実践している地域資源を活用した社会貢献活動などの実践を「年間活動表」にまとめ、「互いの学びの見える化」によって全校児童生徒、職員が互いに実践を見渡せるようにしました。このことにより、学年内の学習グループや学部内の各学年間での指導の一貫性や系統性が更に意識されることにつながると考えたからです。

なお、今年度当初に児童生徒の育てたい力を明確にして、「そこに迫るために地域資源を活用する」ということを共通理解して進めていきたいと考え、研究主題を思いや学んだことを伝える力を育む授業づくり～「横手が舞台」学部間、学年間のつながりのある、地域資源を活用した学習を通して～と見直しました。

また、新たに秋田県教育委員会より「ｅ－ＡＫＩＴＡ　ＩＣＴ学び推進プラン事業」のＩＣＴ活用推進モデル校として２か年の指定をいただきました。本研究にＩＣＴを活用することで児童生徒の意欲や理解が高まったり、思考を深めたり、広げたりすることができるのではないかと期待しています。

**「横手が舞台」のキーワードとは、**

**◇小学部が「ふれる」　…　楽しさを味わう、意欲をもつ**

**◇中学部が「かかわる」…　相手の気持ちを知る、協働する（ともに）**

**◇高等部が「高め合う」…　地域の担い手としての自覚　（肯定的な自己理解）**

**「横手が舞台」について**

学校を卒業した子どもたちは、将来、地域で働き生活をする。だからこそ、子どもたちの今の生活や将来の生活を豊かにするために、地域を学びの教室に、地域社会を学習環境として捉えこれらを学習活動に積極的に取り入れ、地域と協働する学習を展開している。

本校では「横手が舞台」と呼んでいる。知的障害のある子どもたちは、実際の体験をとおして学ぶことが有効だと言われている。学校で学んだことを地域社会で確実に使える力となるよう実際の場面で使ってみて、また校内で学び直す。これを繰り返すことで、その場その場に対応できる確実な力となる。　（令和３年６月職員会議資料より）

新学習指導要領では、子どもたちの「生きる力」を育むために、卒業までに「育成を目指す資質・能力」を明確にし、「社会に開かれた教育課程」のもと、地域の特色を生かして学校と地域が連携・協力しながら教育活動を展開することが求められています。「横手が舞台」は、まさに「社会に開かれた教育課程」の骨太な具現であります。

本校の授業づくりの基礎・基本「横手のスタンダード」をベースにしながら、研究仮設「横手が舞台」の学習で、既習の学習や各段階での資質・能力を明確にし、児童生徒の「思いや学んだことを伝える力」を発揮する姿から学習成果の見取りを行った。育てたい力を地域資源を活用した学習で力試しをする。今、もてる力を使うことで本物の力になる。

２か年の研究の本研究紀要をご高覧いただき、忌憚のないご意見・ご指導をいただければ幸いです。皆様からいただきましたご指導を今後の取り組みに生かし、職員一丸となって一層実践に励みたいと思います。

今後とも、本校の研究にご指導・ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

令和４年３月

# 目 次

はじめに　校長　松井　克彦

第一部　全体研究　1

第二部　各学部の実践
Ⅰ　小学部の実践　6
Ⅱ　中学部の実践　16
Ⅲ　高等部の実践　28

第三部　評価・検証　40

あとがき　教頭　阿部　裕子

研究に携わった職員

# 〈第一部〉

# 全体研究

# 令和３年度　全校研究概要

## １　研究主題

| |
|---|
| 思いや学んだことを伝える力を育む授業づくり<br>～「横手が舞台」学部間、学年間のつながりのある、地域資源を活用した学習を通して～<br>（２年次／２か年） |

## ２　研究主題の設定の理由

（１）主題

昨年度は「『横手が舞台』学部間のつながりのある、地域資源を活用した学習の単元づくり～思いを伝え、人と関わる力の育成を目指して～」という研究主題で研究を進めた。今年度は、本研究で目指す児童生徒の育てたい力を明確にし、それに迫るために地域資源を活用するということを再度共通理解して進めていきたいと考えて、主題と副題を入れ替えることとした。また、児童生徒の育てたい力については、昨年度「思いを伝える力」と「人と関わる力」の二つを掲げて研究に取り組んだ。その結果、学部間のつながりの検討や協議、段階表の作成等を通して「人と関わる力」を育てるためには、伝えようとする意欲をもったり、相手意識をもって表現したりするなど「伝える力」を育成することが重要であることが明らかになった。相手に伝える活動の中で、既習の知識と新たな学習で得た知識を関連付けて、より深く理解したり考えを形成したりすることができると考える。また、児童生徒が伝える内容から学習の成果や変容を見取り授業改善に生かすことで、各学部、学年段階で育成を目指す「人と関わる力」等の資質・能力を育む授業づくりができると考え、研究主題を変更した。

（２）主題の捉え

〇思いや学んだことを伝える力

・学習や体験を通して感じたことや気付いたこと、考えたことを自分なりに表現したり、自分の言葉や文で表現したりする力

・「何ができるようになったか」（学習内容や分かったこと、身に付いたこと等）が分かり、学習の成果物や文字、言葉等で表現する力

〇「横手が舞台」

・横手（本校の児童生徒の活動、居住する地域、地区及び本校の学習活動と密接に関わりのある地域）の地域資源を活用した学部間、学年間のつながりのある学習である。地域での又は地域の方との活動は、児童生徒の生活経験を広げ、知識を深め、様々な人やものと関わって活動する喜びや地域の役に立った実感を得ることができる。また、そうした活動を通して、社会性や豊かな人間性が養われ、郷土を愛し、地域で生活することに自信をもって、積極的に社会参加しようとする意欲が育まれると考える。

〇地域資源

・横手の人材、企業、環境、伝統文化、祭り、特産物

〇つながり

・学部、各学年で行われている学習のねらいなどに段階や系統性をもたせ、実態に応じて同一活動異目標をスモールステップなどの視点でつないでいくこと

（３）昨年度の研究から

本校では、これまで地域資源を活用した実践を多く積み重ねてきた。しかし、学部間での共通理解や連携が弱いという一面があり、学校として一貫性・系統性のある教育活動の実現に課題を感じてきた。また、学校教育目標の目指す児童生徒像の一つである「仲良く～協調性に富み、社会性豊

かな児童生徒」について、職員が課題意識をもっていた。そこで昨年度、「思いを伝え、人と関わる力」に着目して、地域資源を活用した学習活動や目標の系統性や連続性、学部間のつながりについての検討を行った。

研究を通し、各学部の地域資源を活用した取組を職員が共通理解できたこと、他学部の児童生徒同士が交流し、共同して活動し、児童生徒同士の相互理解や新しい関わりが生まれたことが成果として得られた。また、各学部段階の学び方や目標への迫り方が「『横手が舞台』学習の段階表」として整理された。

（４）社会的背景から

改訂された学習指導要領では、「（前略）創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童又は生徒に、生きる力を育むことを目指すに当たっては、（中略）どのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら、教育活動の充実を図るもの」とされ、「具体的に、「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ、児童生徒がその内容を既得の意識及び技能と関連付けながら深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できる生きて働く知識となることを含め、その内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を併せて重視する必要があり、児童生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる」として、各教科等の目標と内容が資質・能力の三つの柱で整理された。（特別支援学校学習指導要領解説総則編（小学部・中学部）第２章第２節の２から抜粋）そして、それらを育むための授業改善の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」が位置付けられている。

（５）今年度の研究

今年度の研究では、１年次の研究成果に基づき、「『横手が舞台』学習の段階表」を活用した地域資源を活用した学習を実践することで、児童生徒の資質・能力が段階的に育成されることを検証していきたい。その際、「伝える」という行為を、知識及び技能を活用し、思考力、判断力、表現力等を発揮する行為の一つと捉えて、児童生徒の学習成果を見取る観点とすることで、「伝える力」の育成状況の明確な評価につなげたいと考えている。

各学年・学部の学びを充実させる上では、過年度取り組んだ「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりの児童生徒が学びを実感できる方法などの研究成果を活用することが有効であると考える。また、伝える経験や場面を充実させるためにも、教科等横断的な視点で、他教科等における指導と関連付け、ICT 等の活用も取り入れながら、言語活動の充実を図っていきたい。これらのことによって、学部、学年間で確かにつながる学びが充実する授業づくりを目指して研究を進めていくこととする。

３　研究の目的

「横手が舞台」の学習において、「（地域のことを）知る」「（地域のことを）発信する」「（地域のために）貢献する」という観点で、学年や学部をまたいで児童生徒の学習内容や資質・能力が段階的に育成される授業づくりを実践する。

４　研究仮説

| |
|---|
| 地域資源を活用した学習である「横手が舞台」の学習で、既習の学習や各段階での資質・能力を明確にし、児童生徒の「思いや学んだことを伝える力」を発揮する姿を通して学習成果の見取りを行い、授業改善することで、各学年・学部段階で育てたい資質・能力を確実に身に付けることができるであろう。 |

５　研究の内容と方法

（１）研究の対象とする教科等

・研究の対象とする教科等は、各学部で検討、決定し、共通理解を図って進める。

（２）指導計画（単元構想図）の作成と授業展開

①　学部間、学年間のつながりのある地域資源を活用した単元構想

ア　単元構想図の作成

・地域資源を活用した学習における学部間、学年間のつながり（既習の学習「何が分かっているか」「何ができるか」）と「伝える力」を基盤とした実態把握

・学ぶこと（「何を学ぶか」）と学び方（「どのように学ぶか」）の明確化

イ　単元構想会の実施

・授業改善コーディネーターを活用した単元構想の検討、見直し、修正

②　児童生徒の資質・能力の育成につながる授業展開及び授業改善

ア　日々の授業改善

・「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確に意識できる導入

・学習を通して感じた思いを言葉と結び付けたり、学習に関する言葉の意味や使途を理解したりして、学んだことを活用できるための学習活動の組み立てと手立て

・児童生徒からの発信を中心とした、学びを定着できる（「何を学んだか」「何ができるようになったか」等の気付き及び理解）振り返りや単元のまとめ

イ　全学級研究授業の実施

・単元の途中評価、改善

ウ　全校授業研究会の実施

・単元の途中評価、改善、学部間や学年間のつながりについて検証

エ　評価

・表現物や発言に関するエピソードを記録による、目標と手立ての評価、見直し、授業改善

・単元終了時に単元前後の児童の変容を基にした単元の評価

（３）言語能力の育成

①　国語科や自立活動等、他の教科等における指導との関連付けを図る

・学んだことや経験したことへの理解を深め、表現する力を高められるよう、同時期に関連させた内容の授業や指導を実施する。

・国語科や自立活動等で活用している教材等及び提示の仕方を研究対象の教科等に取り入れる。

②　児童生徒が表現しやすい方法（手話や VOCA、ICT 機器の活用等）を検討し、活用する。

（４）検証

①　研究授業から

・授業が改善され、「目指す子どもの姿」に近づいているかどうかを意見交換する。その際、表現物や児童生徒の発言の記録などから目指す子どもの姿が見られたかどうかを観点にして授業評価をする。

②　アンケート

・７月と１２月に教師を対象としたアンケートを実施し、比較考察により仮説の検証を行う。

③　「横手が舞台」の学習のつながりや系統性の検証

・学部間、学年間の学びの段階とつながりを、単元の目標及び児童生徒の変容の比較、アンケート結果より検証する。

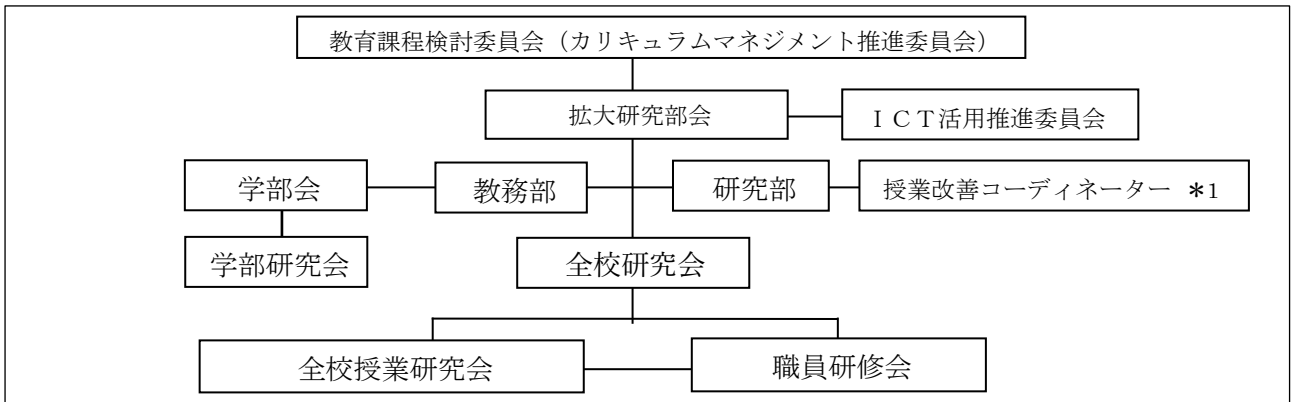
（５）職員研修会

・図書情報教育部と連携・協力して ICT 活用に関する研修会を行う。

（６）研究計画

| 月 | 全校研究会・学部研究会等 |
|---|---|
| 4 | 13日　教育資料説明会（指導計画作成についての共通理解）<br>14日　拡大研究部会<br>22日　全校研究会①（研究概要提案、意見収集） |
| 5 | 6日　学部会（学部研究概要の事前提示）<br>20日　学部研究会①（学部研究の方向性の確認、目指す児童生徒像の具体化） |
| 6 | |
| 7 | 26日　学部研究会②（学部研究実施状況の確認）<br>上旬　教師アンケート<br>27日　教育課程検討委員会（カリキュラムマネジメント推進委員会）① |
| 8 | 23日　全校研究会②（研究の進捗状況の確認と推進の方向性の共有）、研修報告会 |
| 9 | 15日　全校授業研究会①（高等部）<br>24日　学部研究会③（研究推進の中間評価） |
| 10 | 13日　全校授業研究会②（中学部） |
| 11 | 29日　全校授業研究会③（小学部） |
| 12 | 9日　学部研究会④（学部研究実施状況の確認）<br>15日　ＩＣＴ活用推進モデル校公開研究会事前研究会<br>上旬　研究紀要原稿依頼<br>中旬　教師アンケート、児童生徒アンケート |
| 1 | 12日　教育課程検討委員会（カリキュラムマネジメント推進委員会）②<br>26日　ＩＣＴ活用推進モデル校公開研究会<br>31日　学部研究会⑤（学部研究のまとめ） |
| 2 | 18日　教育課程検討委員会（カリキュラムマネジメント推進委員会）③<br>28日　全校研究会③（研究の成果と課題の共通理解） |
| 3 | ※中旬　研究紀要完成、送付 |
| | |

（７）研究組織




＊１　各学習グループの指導計画作成の段階から関わり、授業づくり（計画、実施、評価、改善）に関するアドバイスや指導助言を行う。

6　研究の実際

学部間、学年間のつながりのある地域資源を活用した単元構想

（1）　単元構想図の作成

昨年度の研究の成果物である「『横手が舞台』学習の段階表」を活用して、各学年・学部の段階やつながりを確認し、「横手が舞台」の既習の学習を基盤とした実態、本単元で何をどのように学ぶか（育てたい資質・能力）、そのために活用する地域資源、思いや学んだことを伝える力を発揮する場面、言語能力の育成に関わる他教科等との関連を整理し、単元構想図にまとめた。それを基に単元構想検討会を行って内容や方向性の検討をした。検討に当たっては、授業改善コーディネーターからのアドバイスを基に、内容や方向性について見直し、修正を行った。

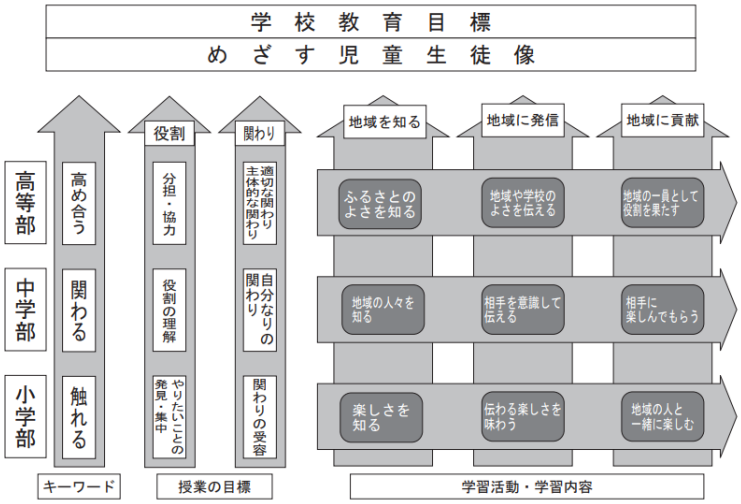



図１
「横手が舞台」学習の段階表概略図

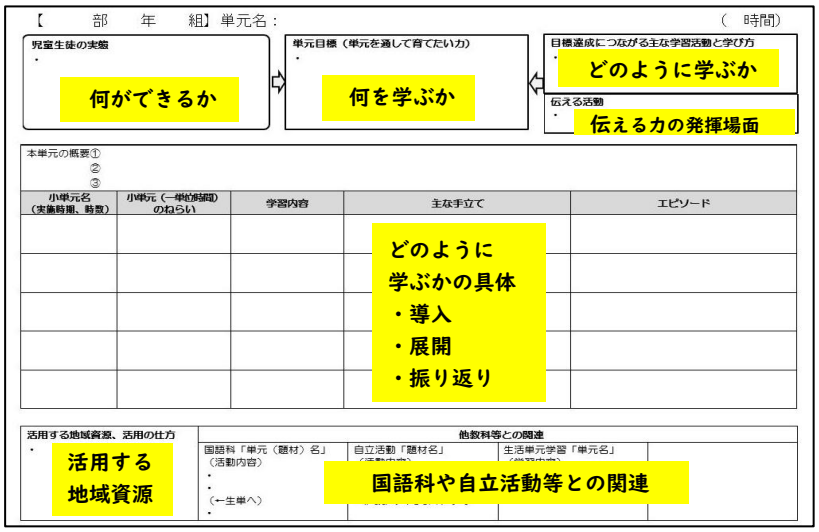



図２
単元構想図

（2）　成果と課題

○各学部共に同一の授業改善コーディネーターを活用することで、学部全体を俯瞰する視点から学年間のつながりを視野に単元の目標や学習内容及び学習活動を確認、検討することができた。単元構想検討会では、貢献や発信、活用する地域資源等について、幅広い視点から具体的なアドバイスが得られ、学習内容や活動の幅を広げることができた。

●「思いや学んだことを伝える力」を発揮する姿を通して、資質・能力が身に付いたかどうかを見取るという仮説のもと、授業づくりを行ったため「伝える」「発表する」などの活動を取り入れる学年が多く見られ、学習内容が国語科と同等と思われる授業もあった。生活単元学習と国語科や自立活動での各ねらいを明確にして、相互補完的に教育効果を上げることができるよう、「何をどのように学ぶか」という学習内容を深く検討することが必要であった。

# 〈第二部〉

# 各学部の実践

## Ⅰ　小学部の実践

＜児童の実態＞

意思表出においては、表情や身振りで意思を伝えようとする児童から、自分の要求や出来事、話したいことや伝えたいことを簡単な言葉で伝えることができる児童、簡単な言葉や短い文章で伝えながら相手とやりとりすることができる児童まで、幅広い実態の児童が在籍している。

人との関わりについては、下学年は、学年の教師や友達とのやりとりを楽しんだり、学級の友達と一緒に活動したり、友達や教師との会話を楽しんだりする場面が増えてきている。上学年は、互いに友達の様子を意識し、児童同士で声を掛け合ったり、自分から友達に関わったり、友達の様子を参考にして活動したりする様子が見られる。

＜小学部で育てたい「思いや学んだことを伝える力」＞

体験を思い出したり、視覚的に振り返ったりして、できたこと、学んだことを子ども自身が分かり（何を学んだのか、何を頑張ったのかが自分で分かり）、学習した言葉や成果物を使って、同じ学年や他学年の教師や友達に自信をもって、自分のもつ表現方法で伝えようとする姿

### 各学級の実践

| 小学部１年 | 単元名 | みんなでたのしく～あき～ |
|---|---|---|

【児童の実態】

・春、夏の季節単元では、季節の飾り作りを通し、紙やのり、シール、クーピーなどの材料や用具を扱うことを経験してきた。制作物をみんなで見合い、教師の問い掛けに対し、制作したものの名前を答えたり、できた喜びを発声や表情で伝えたりするようになった。

【単元目標（単元を通して育てたい力）】

・木の実や落ち葉などの材料に興味をもって触れながら、制作活動をする。　知　技

・秋に関するものに関心をもって見たり、触れたりし、気付いたことや自分の思いを表現しようとする。思判表

・教師や友達の様子を見て、やることに気付いてまねたり、一緒の場で活動したりしようとする。

学　人

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】

・児童の実態に合わせて、使用する教材を準備した。ものをつまむと投げてしまうことが多い児童には、容器の蓋に穴を空けたものを準備したことで、とちの実やどんぐりを指でつまんで穴に入れることに集中して取り組むことができた。

・出来上がった作品をみんなの前で紹介しながら学習を振り返る場面を毎時間設定した。初めは、教師が分かりやすく演示し、やることに気付いたり、まねたりするきっかけを作ったことで、言葉や身振り、発声で頑張ったことを発表するようになった。友達や教師に認められることで、満足そうな表情が見られ、次も頑張ろうという気持ちを引き出すことにつながった。他の学習場面でも、自分から進んで頑張ったことを発表したいという姿が見られるようになってきた。

| 小学部２年 | 単元名 | レッツゴー！こうえんへいこう |
|---|---|---|

【児童の実態】

・学級の友達の名前を覚え、友達の活動に注目したり自分から友達に関わって遊ぼうとしたりする姿が増えてきた。今年度はさらに友達と協力する、一緒に活動・行動する、集団での約束を知り守るといった集団活動の基礎的な力を高めていきたいと考えた。

・１学期の「こうえんへいこう」では、横手市内の公園を２回訪れた。「みんなで一緒に活動する」友達や教師と一緒に安全に活動を楽しむこと、自分や学級の友達の居住地域の様子を見て知る学習の機会を設けた。イラストカードを見ながら『集まる』『時間になったらおしまい』『あいさつをする』などの集団での約束事を知り、校外学習時はもちろん、普段の学習でも「時間になったら次の活動にうつる」という意識が高まってきている。

【単元目標（単元を通して育てたい力)】

・「みんなで一緒に活動する」という校外学習の約束を守り安全に活動を楽しむ。知　技

・事前学習で、目的地や約束などを知り、期待感をもって予定表作りなどの準備に取り組む。思判表

・iPad やテレビで写真を見たり、プリント用紙に思い出をまとめて振り返ったりして、友達の前で発表する。　学　人

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】

・３回実施した校外学習の予定表を教室に提示する際、毎回日にち、目的、約束などを同じレイアウトにして作成したところ、表の見方が分かって、公園に出かけることを楽しみにする姿が見られるようになった。

・振り返りのワークシート作りでは、写真の内容（遊具やエピソード）について教師とやり取りしながら記入した。「だれ」「どこ」「なに」と相手意識、目的意識に関わる内容を引き出すことができた。記入後は、ワークシートをもとにして学級の中で発表を行い、文章やジェスチャーで表現し楽しかったことを発表することができた。教師が個別にやり取りして引き出す場面が多かったため、今後は児童同士ペアにして表現し合うなど児童同士の関わりを増やしていきたい。

| 小学部３年 | 単元名 | わくわくたんけんたい～もてぎぶどうえん～ |
|---|---|---|

【児童の実態】

・昨年度、「わくわくたんけんたい」で校内探検、給食センターの見学を行い、学校生活で身近な人や、給食センターの仕事について知り、関心を広げることができた。

・探検で分かったことを簡単な壁新聞にまとめたり、クイズにして学部集会で発表したりして、発信する楽しさを味わった。集会での発表を通し、場面に合った声の大きさも意識できるようになってきている。

・友達と一緒に取り組む楽しさや達成感を味わい、約束を守ったり、友達と一緒に活動したりできる場面が増えてきている。

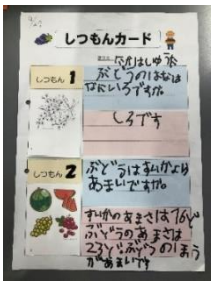
【単元目標（単元を通して育てたい力)】

・地域の農産物（ぶどう）に関心をもち、ぶどうの種類やぶどう農家の仕事について知る。知　技

・ぶどう園見学で見聞きしたこと、気付いたこと、感じたことなどを様々な方法でまとめたり、学部の友達に伝えたりする。思判表

・見学の際の約束を守ったり、友達と一緒にクイズ大会の準備をしたりして、友達と一緒に仲良く活動する。　学　人

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】




・児童が校外学習で質問することや事後のクイズ大会の問題（択一問題）を自分で考えられるように、手がかりとなる画像や選択肢を提示した。また、４回の単元で同じ活動を繰り返したことで、回を重ねるごとに自分で質問することやクイズの選択肢を考えようとする姿が見られるようになった。

・ぶどう園の探検で分かったことを、しっかり覚えられるように、振り返りの学習を、①「しつもんシート」にまとめる。②学部の友達を招いて「クイズ大会」を開く。③「分かったこと発表の会」（３年生のみ）を開く。と、３回設けた。①②の活動は自分が調べたことについて定着を図り、③の活動では、友達が調べたことを他の児童が思い出して答え、みんなで学びを共有することができた。

# 【小学部　６年　１組】単元名：スーパーわくわくテレビ４　にほんごでわくわく ～みんなでれんげ草の会のみなさんをえがおにしよう～（１９時間）

**児童生徒の実態**

・これまでの単元では、児童の興味関心を基に番組の内容や自分の役割を決めたことで、テレビ番組の制作を楽しみにして笑顔で活動に取り組む姿が見られた。また、事前に見本の動画を提示したり、撮影の際に絵や写真が付いた台本を提示したりしたことで、自分の役割や出番が分かって自分から活動する姿も見られた。制作した番組を小学部の児童や保護者に見てもらい、「おもしろかった」と感想をもらったり、笑顔で番組を見ている様子を見たりして、「またやりたい」という気持ちが強くなってきており、本単元に取り組む期待感が強くなっている。活動を通して自分の気持ちや考えを選択肢から選んだり、簡単な言葉で伝えたりするようになってきている。

**単元目標（単元を通して育てたい力）**

・テレビ番組の制作や上映会を通して、相手に伝わる話し方や演じ方が分かってできるようになる。 知・技

・自分や友達の役割が分かって、自分たちで準備や撮影、上映会を進める。 思・判・表

・よりよいテレビ番組の制作のために自分の役割に最後まで取り組もうとする。 学・人

**目標達成につながる主な学習活動と学び方**

・相手に伝わりやすい話し方や演じ方について、動画を見て考えたり、ポイントを確認して、実際にできているかその場で確認したりして、自分なりに工夫する。
・協力して活動することが必要な状況で、友達への具体的な言葉の掛け方や関わり方を学習する。
・れんげ草の会の方に招待状を制作して渡す。

**伝える活動**

・相手に内容が伝わるように工夫してテレビ番組を制作する
・児童同士で言葉を掛け合いながら練習や撮影、上映会を行う。
・振り返りでの感想発表　・上映会（れんげ草の会さん）での発表

本単元の概要①昨年度は、年間で１２回テレビ番組の制作を行い、コーナー番組や情報発信型の番組、ドラマなどを制作し、小学部の児童や家族に発表した。
②今年度も年間を通してテレビ番組の制作を行っている。本単元は年間を通して行う４回目の単元である。これまでの単元では、しりとりや筋肉を付けるための体操などのコーナーで構成された番組を制作し、小学部の児童や家族に発表した。見ている相手に伝わるようにゆっくり話したり、大きな動きで体操をしたりできた。本単元では、児童たちから「自分たちが制作したテレビ番組をれんげ草の会の方に見てほしい」という声が上がり、制作したテレビ番組をれんげ草の会の方に発表することとした。
③本単元では、撮影した映像を基に振り返り、考えることで、相手に伝わるように話したり、演じたりする力を育てたい。また、自分の役割に進んで取り組むことに加え、児童同士の関わりを増やすことで、言葉を掛け合いながら活動を進める姿を目指したい。児童の興味関心を生かしながら、相手とやりとりする場面を繰り返し設定できる『なぞなぞな～に　あきのまき』と『妖怪なぞなぞめくり』を再現したテレビ番組を制作する。本単元を通して、テレビを見る相手に喜んでもらうために、よりよいテレビ番組を制作しようと粘り強く取り組もうとする意欲や態度を育てたい。

| 小単元名（実施時期、時数） | 小単元（一単位時間）のねらい | 学習内容 | 主な手立て | エピソード |
|---|---|---|---|---|
| 「スーパーわくわくテレビ４」のじゅんびをしよう（11月、５時間） | ・「スーパーわくわくテレビ４」を見せる相手や内容、役割を考え、活動への見通しをもつ。<br>・「にほんごでわくわく」で使用する道具を丁寧に作る。 | ・生活　3段階　ウ　日課・予定(ｱ)<br>・図画工作　3段階　A　表現ア(ｲ)<br>・国語　3段階　知・技ウ(ｳ)② | ・自分たちでテレビの内容を考えられるように、児童の興味関心の高いものを選択肢として提示する。<br>・児童の希望を取り入れながら、役割を設定する。<br>・絵の具や筆の扱い方が分かるように見本を示す。<br>・丁寧に作業できるように事前に使用するときの注意点を伝える。 | ・これまでの学習を思い出しながら、本単元でどのような内容の番組を制作するか、選択肢を基に考えたところ、「にほんごでわくわく」を行うことになった。<br>・自分の役割を決める場面では、一人一人が自分のやりたい役割を選ぶことができ、番組制作への期待感が高まっている様子が見られた。<br>・道具の制作では、はさみを使って様々な形の葉っぱ（もみじ、いちょう、落ち葉）を作ったり、大道具に隙間ができないように色を塗ったりすることができた。 |
| れんしゅうとさつえいをしよう（11月、６時間） | ・自分の動きや台詞が分かる。<br>・れんげ草の会の方にテレビ番組の内容が伝わるように、話したり演じたりする。 | ・生活　3段階　カ　役割(ｲ)<br>・国語　3段階　知・技ア(ｲ)<br>・国語　3段階　思・判・表　C読むこと　エ<br>・生活　3段階　ウ　日課・予定(ｱ) | ・自分の出番や動き、台詞が分かるように、見本の動画や絵、写真が付いた台本を提示する。また、自分の出番以外では静かに待つ、出番の人に注目するなどの約束を伝える。<br>・動きやポーズ、台詞のポイントに気を付けて練習できるように、動画を見て内容が伝わる話し方や演じ方を考える場面を設定したり、ポイントを文字や見本で示したりする。 | ・見本の動画を提示したことで、自分の動きが分かり進んで活動する姿が見られた。友達の動きについても意識が向くようになってきて、自分の役割に気付いていない友達に言葉を掛ける姿が少しずつ見られるようになってきた。<br>・動きやポーズ、台詞のポイントを提示したことで、「見本の動画をよく見て動く」「ポーズは腕や足をのばす」「台詞はペアの友達と一緒に話す」ことを意識して練習や撮影に取り組む姿が見られた。 |
| しょうたいじょうをかこう（１１月、２時間） | ・れんげ草の会の方に楽しみにしてもらえるような招待状を書く。 | ・国語　3段階　知・技(ｳ)② | ・楽しみにしてもらえる招待状について考えられるように、自分だったらどのような招待状がほしいか、選択肢を提示しながら質問する。<br>・れんげ草の会の方に招待状を渡し、招待状を受け取ったときの様子を見る機会を設定する。 | ・もらった相手に楽しみにしてもらえるように、丁寧に文字を書いたり、シールで飾り付けをしたりして招待状を完成させた。<br>・直接招待状を渡し、「楽しみにしています」などの言葉を掛けられたことで、相手意識が高まり、「誰を」「どのように」などの質問をしたとき、「れんげ草の会」「笑顔」と答えられるようになり、れんげ草の会の方のために頑張ろうという気持ちが強くなってきている様子が見られた。 |
| じょうえいかいのれんしゅうをしよう（１１月、４時間） | ・上映会の流れや役割を考え、活動への見通しをもつ。<br>・自分の役割が分かり、進んで取り組む。<br>・自分の役割を果たしたり、友達に言葉を掛けたりして自分たちで上映会の練習を行う。 | ・生活　3段階　ウ　日課・予定(ｱ)<br>・生活　3段階　カ　役割(ｲ)<br>・国語　3段階　知・技ア(ｲ) | ・上映会への見通しがもてるように、自分たちでプログラムを考えて制作する機会を設定する。<br>・自分の役割を果たせるように、児童の希望を取り入れながら役割を設定する。また、自分の役割を果たせなければ上映会が成立しない状況を設定し、自分の役割に進んで取り組んでいる姿を評価する。<br>・児童同士で協力して活動できるように、教師の直接的な支援を減らし、活動を見守ったり、気付きを促すような問い掛けをしたりする。 | ・学部集会や学校間交流のプログラムを参考にすることで、ヒントを基に上映会のプログラムに必要な内容を考えたり、役割を決めたりすることができた。練習のときは制作したプログラムを参考に上映会を進行することができた。<br>・上映会でスケッチブックやメダル、ヒントなどを渡す相手を自分で決めたことで、自分がやりとりする相手の顔や名前を覚えて「〇〇さんに渡すのが自分の役割」という意識で活動に取り組む姿が見られた。テレビを上映するときは、①スケッチブックを渡す②スケッチブックをもらう③答えに〇×を貼る④正解の人にメダルを渡す（不正解の人にヒントを渡す）の流れを覚えて自分から動く様子が見られた。<br>・自分の役割に気付いていない児童がいるときは「〇〇さんは何をしていますか」、他の児童に「〇〇さんはどうしたらいいですか」など問い掛けることで、友達の名前を呼んだり、指差しをしたりしてやるべきことを教えようとするようになった。 |
| じょうえいかいをしよう（12月、２時間） | ・れんげ草の会の方に内容が伝わるように話す。<br>・自分や友達の役割が分かって、自分たちで上映会を進める。<br>・「にほんごでわくわく」の活動を振り返り、自分が頑張ったことや友達のよかったことを発表する。 | ・国語　3段階　思・判・表　A　聞くこと・話すこと　イ<br>・国語　3段階　思・判・表　A　聞くこと・話すこと　オ<br>・国語　3段階　思・判・表　A　聞くこと・話すこと　カ<br>・国語　3段階　思・判・表　B　書くこと　ウ<br>・生活　3段階　オ　人との関わり(ｱ)<br>・生活　3段階　カ　役割(ｱ) | ・上映会の前に、これまでの練習を振り返り、上映会を成功させるために一人一人が頑張ることを確認する機会を設定する。<br>・上映会への達成感を得られるように、れんげ草の会の方から感想を聞く時間を設定する。<br>・単元を通して自分ががんばったところや友達のよかったところなどを伝えられるように、自分たちが作ったテレビ番組や上映会の写真、動画を見ながら振り返る場面を設定する。 | ・練習の成果を発揮して、スケッチブックやメダル、次の問題のヒントなどを渡すときに「〇〇さん、どうぞ」「〇〇さん、おめでとう」「〇〇さん、次のヒントです」とはっきり相手に伝えることができた。また、メダルを渡すときは、相手の動きに合わせて首に掛けるなど相手を意識して関わる姿が見られた<br>・れんげ草の会の方が笑顔で楽しんでいる様子を目にしたり、「楽しかった」などの感想をもらったりすることで、自分たちの活動に対する達成感を得ることができた。また、自分たちで最後まで上映会を進めることができ満足感いっぱいの様子が見られた。<br>・自分たちが作ったテレビ番組や上映会の写真、動画を見ることで、自分が頑張ったことや友達のよかったことを簡単な言葉で伝えることができた。 |

**活用する地域資源、活用の仕方**

・れんげ草の会…テレビ番組の上映会に招待する。れんげ草の会の方を笑顔にすることを目標に、テレビ番組の制作をする。上映会では、れんげ草の会の方ともやりとりをして楽しんでもらう。自分たちの番組に対する感想をもらい、達成感を得たり、次の活動の意欲につなげたりする。

**他教科等との関連**

| 国語科「きこう、はなそう」 | 自立活動「じぶんのきもちをつたえよう」 | 遊びの指導「おはなしのくにへレッツゴー！」 | |
|---|---|---|---|
| （活動内容）<br>・かるたとり　・しりとり　・絵本の読み聞かせ（←生単へ）<br>・相手に伝わるように、ゆっくり、はっきり話す。<br>・相手に意識を向け、話を聞く。 | （活動内容）<br>・自分の気持ちややりたいことを選択肢から選んだり、簡単な言葉で伝えたりする。（←生単へ）<br>・視覚的な選択肢の提示 | （活動内容）<br>・教師や友達のまねをしたり、誘ったりしながら関わり、一緒に楽しむ。（←生単）<br>・優しく言葉を掛けたり、関わりを受け入れたりして一緒に活動する。 | |

# 小学部　第６学年　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和３年 11 月 29 日（月）13：10～13：55
場　所：小学部６年１組教室
指導者：佐々木詠吏（Ｔ１）、小西美穂（Ｔ２）

1　単元名　スーパーわくわくテレビ４　にほんごでわくわく
～みんなでれんげ草の会のみなさんをえがおにしよう～

2　目標

(1) テレビ番組の制作や上映会を通して、相手に内容が伝わる話し方や演じ方が分かってできるようになる。 知　技

(2) 自分や友達の役割が分かって、自分たちで準備や撮影、上映会を進める。 思判表

(3) よりよいテレビ番組の制作のために自分の役割に最後まで取り組もうとする。 学　人

3　児童と単元について

(1)　児童観

本学級は男子５名の学習集団である。１名は集団での学習への不安感が強く、別室で個別での学習を行っている。コミュニケーション面の実態は様々だが、これまでの学習を通して学級の友達に自分から言葉を掛けたり、友達の様子を参考にして活動しようとしたりする姿が見られる。一方で、自分の気持ちをうまく伝えられずやり取りが一方的になったり、相手からの関わりを受け入れられなかったりする場面が見られる。

本学級は、楽しみながら自分の役割を果たしたり、目標に向かって協力しながら活動をやり遂げたりすることをねらい、テレビ番組の制作に取り組んでいる。これまでの学習では、児童の興味関心を基に番組の内容や自分の役割を決めたことで、テレビ番組の制作を楽しみにして笑顔で活動に取り組む姿や自分の役割や出番が分かって自分から活動する姿が見られた。活動を通して自分のやりたいことを考えたり、自分の頑張りを振り返ったりすることで、自分の気持ちや考えを選択肢から選んだり、簡単な言葉で伝えたりするようにもなってきている。

(2)　単元観

テレビ番組の制作は、自分がテレビに映ることができるため児童にとって魅力的な活動である。また、昨年度から年間を通して取り組んでおり、継続的な取り組みのため見通しがもちやすい。テレビ番組の制作を通して、児童の実態に応じた様々な役割が設定でき、自分の頑張りや友達のよさを認め合う機会を繰り返し設定できる活動であることから、今年度も取り組むこととした。

今年度は「スーパーわくわくテレビ」として３回制作を行った。これまでの単元では、しりとりや筋肉を付けるための体操コーナーで構成された番組を制作し、小学部の児童や保護者に発表した。見ている相手に伝わるようにゆっくり話したり、体のどの部分をどのように動かしたらよいか分かるように大きな動きで体操をしたりすることができた。また、みんなでよりよい番組を作るために、最後まで活動をやり遂げられるようになってきた。

本単元では、児童の興味関心の高い絵本の中から、協力して活動したり、相手とやりとりしたりする場面を繰り返し設定できる『なぞなぞな～に　あきのまき』と『妖怪なぞなぞめくり』を選び、テレビ番組を制作する。撮影した映像を基に振り返り、考える機会を設定することで、相手に伝わるように話したり、演じたりする力を育てたい。また、自分の役割に進んで取り組むことに加え、児童同士の関わりを増やすことで、言葉を掛け合いながら自分たちで活動を進める姿を目指したい。制作したテレビ番組はれんげ草の会の方に発表する。れんげ草の会の方には、１年生の頃から定期的に絵本の読み聞かせをしていただいており、本学級の児童も毎回絵本の読み聞かせを楽しみにしている。児童たちから、「今度は自分たちが制作したテレビ番組をれんげ草の会の方に見てほしい」という声が上がり、これまでお世話になったことへの感謝も込めて発表の対象とした。本単元を通して、テレビを見る相手に喜んでもらうために、よりよい番組を制作しようと自分たちの力で粘り強く取り組もうとする意欲や態度を育てたいと考え本単元を設定した。

(3)　指導観

相手に内容が伝わる話し方や演じ方が分かるように

・相手に伝わりやすい話し方や演じ方について、実際にできているかその場で確認したり、動画を見ながら振り返って考えたりする場面を設定する。
・相手に伝わりやすい声の大きさや話す速さ、体の動き、動きのタイミングなどのポイントを文字やイラストで提示する。

れんげ草の会の方に喜んでもらうことや友達と協力することを意識できるように

・授業の導入や練習の際にれんげ草の会の方の写真を提示し、どのような表情になったり、どのような感想を話したりしてほしいか問い掛ける場面を繰り返し設定する。
・れんげ草の会の方に招待状を制作して渡す機会を設定する。
・協力して活動することが必要な状況を設定し、友達への具体的な言葉の掛け方や関わり方の見本を示す。

自分の役割に最後まで取り組めるように

・自分の役割を果たさなければ番組が成立しない状況を設定し、自分の役割に進んで取り組んでいる姿を評価する。
・番組の内容や流れが分かる見本の動画を提示したり、絵や写真が付いた台本を提示したりする。
・自分や友達のよかったところを振り返り、互いの頑張りを認め合う場面を設定する。

4　指導計画（総時数 19 時間）

| 小単元名 | 主なねらい | 活動内容 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 「スーパーわくわくテレビ４」のじゅんびをしよう | ・「スーパーわくわくテレビ４」を見せる相手や内容、役割を考え、活動への見通しをもつ。<br>・「にほんごでわくわく」で使用する道具を丁寧に作る。 | ・教師の説明を聞いたり、テレビを見せたい相手や自分たちがやりたい内容を考えたりする。<br>・「にほんごでわくわく」で使用する絵に色を塗ったり、飾り付けをしたりする。 | ５時間 |
| れんしゅうとさつえいをしよう | ・自分の動きや台詞が分かる。<br>・れんげ草の会の方にテレビ番組の内容が伝わるように、話したり演じたりする。 | ・自分がやりたい役割を選ぶ。<br>・見本のビデオを見る。<br>・練習をする。<br>・練習の動画を見ながら、内容が伝わる話し方や演じ方を考えて撮影する。 | ６時間 |
| しょうたいじょうをかこう | ・れんげ草の会の方に楽しみにしてもらえるような招待状を書く。 | ・招待状を書く。<br>・招待状を渡す。 | ２時間 |
| じょうえいかいのれんしゅうをしよう | ・上映会の流れや役割を考え、活動への見通しをもつ。 | ・上映会の流れを考え、役割を決める。<br>・プログラムと景品を作る。 | ４時間<br>本時<br>(3/4) |
| | ・自分の役割が分かり、進んで取り組む。 | ・上映会での自分の役割を意識して練習をする。 | |
| | ・自分の役割を果たしたり、友達に言葉を掛けたりして自分たちで上映会の練習を行う。 | ・上映会を自分たちで行うために練習する。 | |
| | ・本番をイメージした練習を行う。 | ・４・５年生に見てもらい、感想を聞く。 | |
| じょうえいかいをしよう | ・れんげ草の会の方に内容が伝わるように話す。<br>・自分や友達の役割が分かって、自分たちで上映会を進める。<br>・「スーパーわくわくテレビ４」の活動を振り返り、自分が頑張ったことや友達のよかったことを発表する。 | ・れんげ草の会の方にテレビの上映会を行う。<br>・れんげ草の会の方から感想を聞く。<br>・動画や写真、これまでの学習で分かったことをまとめた掲示物を見ながら、振り返る。 | ２時間 |

他の教科等との関連

【生活単元学習】

スーパーわくわくテレビ１
にほんごでわくわく、きんトレでわくわく
・ようかいしりとり　・筋トレダンス

スーパーわくわくテレビ２
ほろわんぱーくでわくわく
・宿泊学習

スーパーわくわくテレビ３
おんがくでわくわく
・身体表現　・鍵盤ハーモニカ　・ダンス

スーパーわくわくテレビ４
にほんごでわくわく
～れんげ草の会のみなさんをえがおにしよう～
・なぞなぞな～に　・ようかいなぞなぞめくり

スーパーわくわくテレビ５
つくってわくわく
・クリスマスオーナメント

【各教科等】

国語科「きこう、はなそう」
「よんでみよう」
「かいてみよう」
「絵本の読み聞かせ」

自立活動「おはなししよう」
「じぶんのきもちをつたえよう」
「ルールをまもってこうどうしよう」
「こまったときにどうしたらいいかかんがえよう」

遊びの指導「おはなしのくにへレッツゴー」

５　本時の計画

(1) 本時の目標

・自分の役割を果たしたり、友達に言葉を掛けたりしながら、自分たちで上映会の練習を行う。

思判表　学・人

(2) 個別の目標

| 児童名 | 目標（期待する具体的な学びの姿） | 評価 |
|---|---|---|
| A | ・友達の動きや言葉を手掛かりに、自分が担当する人の名前を呼んで景品や次の問題のヒントを届けたり、解答用のノートを運んだりする。 思判表　学・人 | |
| B | ・活動の流れが分かり、タイミングよく動いたり、友達に動きを教えたりする。 思判表　学・人 | |
| C | ・自分がやり取りする人が分かり、解答用のノートを運んだり、名前を呼んで景品を届けたりする。 思判表　学・人 | |
| D | ・テレビを上映する場面で、自分で気付いてテレビの操作をしたり、友達に言葉を掛けたりながら、最後まで進行する。 思判表　学・人 | |

評価について：〇本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

※Ｅは、集団での学習に不安感が強いため、個別に学習している。本時は早退のため、事前にナレーションを録音している。

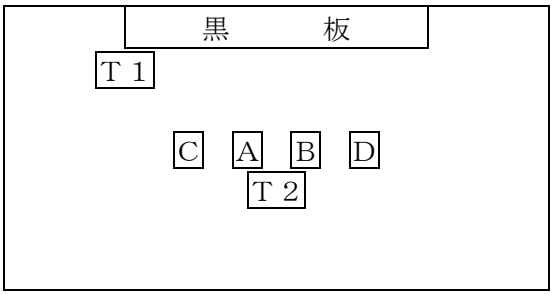
(3) 展開

| 段階 | 学習活動 | 指導上の手立て（○）、伝える力に係る手立て（◇） | 準備物 |
|---|---|---|---|
| 導 入<br>（５分） | １　スーパーわくわくテレビの歌を歌う。<br>２　合い言葉を言う。<br>３　めあてを知る。 | ○活動へ期待感をもち、意欲的に活動できるように、身振りを付けながら歌う。（Ｔ１、Ｔ２）<br>○活動の目的を意識できるように、みんなで合い言葉（みんなでれんげ草の会のみなさんをえがおにしよう。）を言う。（Ｔ１） | ＢＧＭ<br>歌詞カード<br>合い言葉カード |
| | 〈本時のめあて〉みんなでちからをあわせてじょうえいかいのれんしゅうをしよう。 | | |
| 展 開<br>(35 分) | ４　上映会の練習をする。 | ○発問したり、文字カードを提示したりして、力を合わせることが「自分の係を頑張ること」「友達に知らせること」であることを確認する。<br>◇児童同士で上映会を進められるように、活動を見守ったり、「○○さんは何をするのですか」と問い掛けたりする。（Ｔ１、Ｔ２） | 文字カード |
| | ※司会（A）<br>(1)はじめの言葉（B）<br>(2)歓迎の言葉（D）<br>(3)スーパーわくわくテレビの上映 | ○Ａが、自分の役割を分かって活動できるように活動の流れを示した手順表を用意したり、立ち位置に印を付けたりする。<br>◇Ｄが話している内容が相手に伝わりやすいように、めくり式の文字カードを用意する。 | プログラム<br>文字カード |
| | ①なぞなぞの問題の動画を見せるためテレビの操作をする（D）<br>②答えを書いてもらう（れんげ草の会の方）<br>※本時は事前に準備<br>③書いてもらった答えを黒板に貼る<br>④正解の動画を見せるためテレビの操作をする（D）<br>⑤当たり、外れのカードを解答用のノートに貼る（Ｂ、Ｄ）<br>⑥正解者に景品を渡す<br>不正解者に次の問題のヒントを渡す<br>※①～⑥を８回繰り返す<br>(4)お礼の言葉（C）<br>(5)おわりの言葉（B） | ○Ｄが、最後まで活動に取り組めるように、活動の合間に即時評価をしたり、励ましたりする。<br>○れんげ草の会の誰がどのように答えたか見て分かるように、解答用のノートを用意する。<br>○Ａ、Ｃが、自分がやり取りする人が分かるように、れんげ草の会の方の写真の上に児童の顔写真を掲示する。<br>○様々な答えに対して正誤を正しく判断できるようになるために、正誤を取り混ぜた様々な答えを用意する。<br>○Ｂが活動の流れが分かり、自分から動けるように、「Ｄさんは何をしていますか」などの言葉を掛ける。（Ｔ１）<br>○Ａ、Ｃが、解答者に景品やヒントを正しく渡せるように、当たり、外れと記したケースを用意する。<br>◇Ａ、Ｃが、景品等を届けたり、相手の名前を呼んで景品を渡したりできるように、景品に名前や顔写真、台詞を付ける。<br>◇Ｄが、友達に言葉を掛けられるように「○○さんは△△していますか」と問い掛ける。（Ｔ２）<br>◇Ｂが、自分の役割に気付いていない友達に動きを教えたときは称賛する。（Ｔ１）<br>○Ｃが、お礼の言葉を自信をもって話せるように、原稿を用意する。 | テレビ<br>タブレット<br>HDMI ケーブル<br>解答用ノート<br>顔写真<br>当たりカード<br>外れカード<br>景品（メダル）<br>次の問題のヒント<br>景品やヒントを入れるケース<br>原稿 |
| まとめ<br>（５分） | ６　本時の活動を振り返る<br>７　次時の活動について話を聞く。 | ◇自分の係ができたかや何を頑張ったかを発表する機会を設定する。<br>◇友達に知らせることができたか、どのようにできたか発問する。（Ｔ１）<br>○次回は４・５年生に上映することを伝える。（Ｔ１） | |

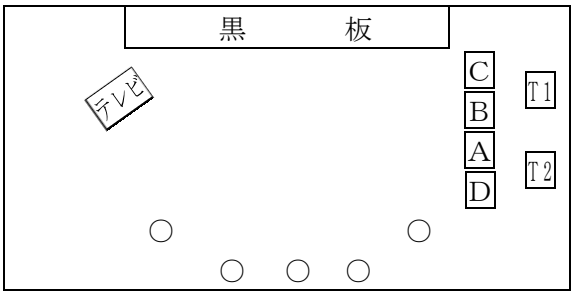
(4) 配置図や教材

○６年１組教室

導入・まとめ




展開




(5) 評価の観点

| | |
|---|---|
| 児童 | ・自分の役割が分かって活動したり、友達の様子に気付いて言葉を掛けたりしながら、自分たちで上映会の練習をすることができたか。 |
| 教師 | ・児童が自分の役割が分かって活動したり、友達の様子に気付いて言葉を掛けたりしながら練習するための手立ては適切であったか。 |

○景品（メダル）

【授業者から】
・テレビ番組の制作は、昨年度から年間を通して取り組んでおり、児童の実態に応じた様々な役割が設定できること、自分の頑張りや友達のよさを認め合う機会を繰り返し設定できる活動であることから、今年度も取り組むこととした。
・これまでの単元を通して、見ている相手に伝わるように話したり、最後まで活動をやり遂げたりするようになってきている。
・本単元では、１年生の頃から定期的に絵本の読み聞かせをしていただいている「れんげ草の会」の方を招待してテレビ番組を上映する。「れんげ草の会のみなさんをえがおにしよう」を合い言葉に、れんげ草の会の方に喜んでもらえるようなテレビ番組を作ることが単元のゴールである。
・テレビ番組の制作を通して撮影した映像を基に振り返り、相手に伝わるように話したり、演じたりする力を育てたい。また、撮影や上映会に向けた練習では、児童同士が言葉を掛け合いながら自分たちで活動を進める姿を目指したい。
・本時では、手順表などの手掛かりを基に自分の役割に気付いて自分から活動する姿や友達の名前を呼んだり、やるべきことを伝えたりして一緒に活動を進めようとする姿が見られた。また、振り返りでは一人一人が自分の係で頑張ったことを選んだり、簡単な言葉で話したりすることができ、授業が終わったときの子どもたちからやりきったという様子が伝わってきた。

【グループ協議から】
Ａ写真ではなく、人がいると臨場感が得られ、生の反応がもらえて盛り上がり、「お客さんが笑顔になると楽しい。うれしい。」と感じられるのではないか。
Ｂミスがあった時に一度止めて確認して練習する、振り返ることも必要ではないか。
Ｃ提示された評価規準は達成しているが、直接正誤を伝えてやりとりをするなど、教師が見本を示すことで具体的な場面で人とやりとりをする力を付けるなど高次の力を目指せたのではないか。
Ｄ「伝わった」「分かった」が分かるように、児童からフィードバックする場面があるとよい。
Ｅめあてを子どもが分かる言葉やイメージで伝える。或いは、めあてに「自分の役割（係）をがんばる」と明記し、振り返りでどこをがんばったかを発問するとよいのではないか。
Ｆ写真だけでなく実際の人を使うことで、表情、声など、相手を具体的に感じられるのではないか。
Ｇはじめに個々の児童がどのように、何をがんばるのかを丁寧に確認し、その上での振り返りをすると、友達との関わりも見えてくるのではないか。
Ｈ相手を笑顔にするためにどんなことをしたらよいかを考える、分かることも単元でねらいたい。
Ｉ繰り返しの回数を半分にし、教師の評価と児童同士で考え合う場でメリハリをもたせるとよい。

【指導助言】
・自分と周囲の関係性をうまく捉えられない子どもが司会などの役割を担い、自分の言葉や動きで周りが反応してもらえるという状況を学んでいくのはとても大切な学習の機会である。
・ＩＣＴ機器のボタンが全てつながった状態で戸惑う場面があったが、一つ一つの操作ボタンが切れた状態であれば、本人の操作感もトラブルも少なくて済むのではないか。
・めあてと振り返りについて、単元としてのゴールをしっかり押さえた上で子どもたちが、今自分は何をしなければいけないのか、どういうことをこの次に行うのかということが分かって取り組むことが主体的で対話的で深い学びにつながる。
・授業のベースラインはできているかという視点で授業をチェックしてみてほしい。主体的で対話的な学びは、そのベースラインが整った上でのことであり、特別支援からすれば当たり前のことである。

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】
・話し方や演じ方のポイントを提示し、その場で確認したり、動画を見ながら振り返ったりする場面を設定することで、相手に伝わりやすい声の大きさや話す速さ、体の動きやタイミングを意識して話したり、動いたりすることができた。
・招待状を制作して、れんげ草の会のみなさんに直接渡す機会を設定することで、相手に喜んでもらいたいという気持ちが高まり、撮影や練習に繰り返し取り組み、最後まで活動することができた。上映会当日は、れんげ草の会のみなさんに楽しんでもらうことができ、自分たちの活動に対して満足感を得ることができた。

・児童同士の関わりを増やせるように、活動を見守ったり、問い掛けの言葉を精選したりすることで、自分の役割に気付いていない友達に言葉を掛けて自分たちで活動を進めようとする姿が見られた。
・選択肢を提示しながら、自分が頑張ったことを振り返り、発表する場面を設定することで、自分なりの言葉で感じたことを表現することができるようになってきた。

**小学部の成果と課題（〇：成果、●：課題）**

（１）「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にできる導入

〇導入で、児童が分かる形（イラストと文字で示したカードなど）で学習内容や活動の順番、めあてを、毎回あるいは毎単元同じように黒板や掲示板に掲示することで、児童が何をするのかや目的が分かって活動に取り組んだ。さらに、それらの掲示物は振り返る際の手掛かりにもなった。

〇繰り返し行っている校外学習の予定表を毎回同じレイアウトで作成し、教室に掲示することで、予定表を見ながら楽しみにしたり、確認したりする姿が見られた。

●各学級で行われている学習のパターンや効果的な掲示物、板書方法などを共有し、参考にし合うことで、より児童が学びやすい授業を工夫していきたい。

（２）学んだことを活用できるための学習活動の組み立てと手立て

〇複数の単元で同じような活動を繰り返し設定し、教師の演示や手掛かりとなる画像や選択肢を提示することで、学び方を覚え、単元ごとに、頑張ったことなどを自分から表現したり、前回の活動を思い出し参考にしながら自分で考えようとしたりする姿が増えた。

〇ポイントの提示や活動の途中で振り返る場面を設定することにより、ポイントを意識して練習したり、授業の中で改善したりしてできるようになったことを本番で発揮することができた。

〇個別の国語・算数の学習で取り組んでいる学習を生かした教材を活用することで、得意なことを生かして制作活動に集中して取り組む姿が見られた。

（３）学びを実感できる振り返りや単元のまとめ

〇制作物やワークシートの活用、段階を踏んだ活動設定など、学年ごとの児童の実態や経験値に合った形での振り返りを設定することで、学習を思い出したり、進んで友達の前で頑張りを発表したり、学習内容をしっかり覚えたりすることができた。

●児童が目的意識をもって活動に向かい、学びを実感するまとめにつながるめあての設定や児童の実態や活動内容に合った生活単元学習としての振り返りの方法を今後も考えていきたい。

## Ⅱ　中学部の実践

＜生徒の実態＞

意思表出においては、相手に視線を向けたり頭部を小さく上下左右に動かしたりして意思を伝えようとする生徒から、自分の考えや伝えたい内容に合った適切な方法を考えることができる生徒まで、幅広い実態の生徒が在籍している。自分の意思を得意な方法で伝えたり、望ましい伝え方などを知ろうとしたりする姿が見られる。

人との関わりに関しては、情緒が不安定になり集団から離れたり、言葉遣いが粗暴になったりする生徒、他者の気を引きたくて集団から離れてしまう生徒がいる一方で、学級だけでなく色々な友達とのやりとりや集団での活動を楽しむ生徒などが在籍している。

自分たちの住んでいる横手市に関する学習に繰り返し取り組むことで、地域に対する興味や関心の幅が広がり、マナーに気を付けながら周りの人と関わったり、自分たちの考えを伝えようとしたりする姿が見られるようになってきている。

＜目指す姿＞

学習を通して感じたことや考えたこと、学んだこと、できるようになったことやその理由を、自分のできること（表情や体の動き、提示する、話す、書くなど）を組み合わせて使い、相手や場面に応じた方法で、知らせようとしたり知らせたりする姿

### 各学級の実践

| 中学部１・２年１組 | 単元名 | 計画して挑戦してみようパートⅡ～横手を知ろう、紹介しよう～ |
|---|---|---|

【生徒の実態】

・２年生は昨年の生活単元学習で横手市について学習し、横手の名所、名産などについて調べたり、リンゴ狩り、横手やきそばの試食などの体験を行ったりしている。１年生は、出身小学校で「横手の雪まつり」などの横手の特徴的な行事等について学習している生徒もいる。家族等と一緒に地域の行事に積極的に参加している生徒が多い。

・全員、ＩＣＴ機器に興味があり、２名が自分専用のＩＣＴ機器を持っている。自宅等では自由に操作したり両親に要求したりして動画投稿サイト等に接し、楽しんでいる。

【単元目標（単元を通して育てたい力）】

・地域の特徴的な文化遺産や伝統、歴史などを見聞きしたり、体験したりすることで地域への理解や郷土愛を深め、その内容をまとめる。知　技

・学習で学び、気付いた横手の魅力をＩＣＴ機器を使いレイアウトや文字の大きさなどを工夫し、スライドショーを作成して発信する。思判表

・役割分担をして活動することで、認め合ったり協力し合ったりしながら、一つのものを作り上げる達成感を共有し合う。学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】

・タブレット型端末（iPad）のプレゼンテーションアプリ（Keynote）の活用の仕方を覚え、横手の名所、名産などについて調べたり、体験したりしたことを紹介するスライドショーの製作に意欲的に取り組む姿が見られた。自身での操作が難しい生徒の場合でも、紹介したい内容や使用したい写真等を自分で選択して自分が伝えたいことをスライドショーにまとめたり、それを見ながら発表したりする活動に意欲的に取り組む姿が見られた。

・よりよいプレゼンテーションを作り上げるためにスライドを見合い、意見を出し合う活動では、電子黒板で改善前のスライドと改善後のスライドを比較できるように提示した。改善の前後のスライドを同じ画面に表示し、改善による変化を視覚的に確認できるようにしたことで、生徒はそれを基によいと思った点などについて理由を考えたり、意見を出し合ったりすることができた。

| 中学部１・２年２組 | 単元名 | 「２組新聞社Ⅱ～調べて分かったことを伝えよう～」 |
|---|---|---|

【児童の実態】
・横手市の食べ物や自分が行ったことがある場所について興味や関心が高い。「横手のかまくら」は全員知っている。また、前単元では、「横手」をテーマに切り抜き新聞作りをしている。
・自分の考えを入れながら簡単な文章を書くことができる生徒と、教師の支援を受けながら文章を書いたり字をなぞったりする生徒がいる。
・新聞の読み手がいることを意識して、字を丁寧に書こうとしたり、発表のときに声の大きさや話すスピード、視線の向きを意識したりする態度が見られるようになってきている。

【単元目標】
・「横手のかまくら」に対しての興味・関心を高めたり、知識を増やしたりする。知　技
・分かったことや自分の考えを文章にまとめたり、他の人が見やすいようにレイアウトを考えたりして、壁新聞を制作する。思判表
・発表するときに自分が伝えやすい方法を考え、発表の仕方を学んだり、かまくらについて知ったことを周りの人に伝えたりする。学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・生徒の実態に合わせ、単元計画表の形式を工夫した。現在の学習と前後の学習のつながりが見え、次の学習への意欲付けになった。
・タブレット型端末（iPad）を活用した調べ学習やそこで解決できなかった疑問を調べたり、かまくら自体の大きさやその時期の寒さを体験したりするために、校外学習に出かけた。どちらも意欲的に活動に取り組み、実際に体験することで、疑問が解決したり、新しい知識が増えたりした。

・自分達の学習の成果を多くの人に伝えるため、壁新聞の掲示の他に、学校のHP に掲載し、学年同士の発表会を行った。それぞれ準備の活動から期待感をもって意欲的に取り組んだ。壁新聞の感想をもらって喜んだり、担任以外の教師に「ホームページを見てください。」と話したりする姿が見られた。

| 中学部３年１組 | 単元名 | 横手が舞台　～横手を盛り上げよう～ |
|---|---|---|

【児童の実態】
・昨年は、横手の発酵食品や横手やきそば、伝統野菜など地域の食文化について見学したり、味わったりして地域の方にお世話になった。
・生徒によって視線で伝えたり、言葉で伝えたり、相手に合わせた伝え方を考えたりできる。

【単元目標（単元を通して育てたい力）】
・地域貢献に期待感をもち、協力して製作する 知技　学人
・地域と目的(コロナ対策、地域を盛り上げる)を共有して、製作活動に取り組んだり、自分たちの取組のよさをまとめ、発表したりする。 思判表
・横手やきそばをとおして地域文化の一端を担う担い手や文化に親しむ。 学人

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】
・生徒が直接地域の方のお話を聞く機会を設定し、そのニーズに応える学習を設定した。具体的な活動は、横手やきそばの店舗での支払い時に、コロナ対策として店員と客が接触の機会を減らすことができるように、木製のコイントレーを製作して贈呈した。
・地域の中での役割を与えられたことで、年度当初は本当にできるのかと不安に思う生徒も多かった。しかし、繰り返し製作活動に取り組むことでコイントレーの作り方を覚え、うまく作ることができるようになるにつれて、自信を付けた。一方で、繰り返しの活動による飽きも見られた。横手やきそば暖簾会の方から中間評価をいただければよかった。

・贈呈式当日は、横手やきそば暖簾会会長から、感謝の言葉をいただくことで達成感を味わうことができた。また、メディアを活用し、振り返りに取材を受けたニュース映像を使用したことで、自分たちの取組のよさを再確認し、校内で発表することができた。

| 中学部３年３組 | 単元名 | 横手が舞台　～育てよう、横手の食材②～ |
|---|---|---|

【生徒の実態】
・前単元であきたこまちや横手市の特産品シシリアンルージュの歴史、特徴について学んだ。調べた内容をプレゼンテーションソフト（Keynote）や模造紙にまとめ、他学級の生徒に発表をした。
・自分の考えを発表したり、文章にしたりすることに苦手意識を感じている生徒が多い。
・農園芸や調理学習の経験があり、収穫予定の野菜を使った調理をしたいという希望をもっている。

【単元目標（単元を通して育てたい力）】
・調べたことや地域の方から学んだことを生かしてメニューを考え、収穫した米や野菜を使って調理し、会食する。 知　技
・学習したことが相手に伝わるように、発表の仕方について意見を出し合い、役割分担をして発表する。 思判表
・どのような工程を経て、食べられているか知るために、地域の人から収穫や精米の仕方を教わり実践する。 学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・導入では収穫の仕方や使用する道具について予想した。収穫の仕方を横手営農センターの方に直接教えていただき、自分の予想がどうだったか、活動の感想と共に振り返ることができた。また、営農センターの方に向けて、バケツ稲の成長過程や交流の様子をまとめた思い出シートとお礼のメッセージカードを作成した。「丁寧な字で書いたり、写真を真っ直ぐ貼ったりすればいい」など、感謝の気持ちを表すために自分たちができることを考えてから活動に取り組んだ。
・学年合同で３回実施した「横手が舞台発表会」に向けて、学級の取組をどのような方法で伝えるか、毎回意見を出し合う場を設定した。「イメージキャラクターがいるといいから、私が作ります」「発表の前後にＢＧＭがあると、聞く人が注目しやすい」など、発表を重ねるごとに具体的な意見が出てきた。発表後の振り返りでは、他学級の発表を見て、「次回はこうしたい」と発表の内容に加え、発表の方法に注目する生徒の姿が見られた。

# 【中学部３年２組】単元名：横手が舞台　～ぼくらのオールファー夢～

**児童生徒の実態**
- コミュニケーションに課題意識をもっている。
- 農園芸の経験があり、野菜の栽培の手順が分かったり、成長や変化に気付いたりする。
- １学期に、野菜を育てて分かったことを壁新聞にまとめ、学年で発表会を行った。

**単元目標（単元を通して育てたい力）**
- 身近な野菜の栽培活動をとおし、植物の成長の変化に気付いたり、おいしい野菜を育てるための方法が分かったりする。
- 野菜について、取材や栽培活動から分かったことを友達と役割分担して壁新聞にまとめる。
- 聞き手に伝わるように、話し方や表現方法について意見を出し合い、工夫して発表する。

**目標達成につながる主な学習活動と学び方**
- 野菜の栽培　・壁新聞の作成　・地元の農家から野菜の栽培方法を学ぶ
- 学年の発表会

**伝える活動**
- 壁新聞の作成　・発表会
- 「松本さん」との交流
  （いももこの生育状況を伝え、直接や間接的に助言を得る）

本単元の概要　①横手市山内地区在住で農業の専門家である「松本さん」に技術面でサポートしていただきながら野菜を栽培する。
「松本さん」は横手支援学校とのつながりが深い。他校の事務職員であり、交流活動の有益生を理解し、活動を大切にしてくれる方である。
②横手市の特産品である山内いものこや、菊芋などの野菜の栽培活動は成長の様子が分かりやすく、収穫の喜びを味わえる。また、地域の人と直接的なやり取りを行う中で農業の専門的知識を得ることができる。
③本学級の生徒は、気持ちの伝え方に課題意識があり、相手意識をもって伝えることができるように壁新聞作りや発表会を設定した。

| 小単元名<br>（実施時期、時数） | 小単元（一単位時間）のねらい | 学習内容 | 主な手立て | エピソード |
|---|---|---|---|---|
| 1　成長を記録しよう<br>（９月、９時間） | ・野菜の栽培、収穫、保存方法を知る。知　技<br>・役割を分担し、協力して活動する。　学　人<br>・植物の成長、変化に気づき、的確に伝える。思判表<br>・上皿はかりを使い正確に重さを量る。知　技<br>・適切な表現で手紙を書いたり電話でやり取りしたりする。思判表　学　人 | 理科Ａ生命(ア)(イ)<br>職・家Ａ職業生活<br>生活力役割キ手伝い・仕事<br>数学Ｃ測定<br>社会工産業と生活 | ・繰り返し行う活動に見通しがもちやすいように、計測や水やりなど、担当する役割やペアを固定して分担する。<br>・専門的な知識や技能を知ることができるように、松本さんから直接指導を得たり、手紙や電話、オンラインを通じて即時答えて頂いたりする機会を設定する。<br>・変化に具体的に気づくことができるように、丈、色、葉の大きさなど観察時の観点を示す。 | ・クラスの係活動として、毎日水やりなどに取り組んだことで、野菜の変化に気付き、生徒同士で伝え合う姿があった。<br>・松本さんが教えてくれた、山内いものこの特徴、いものこが山内の風土に合っているということ、適した調理法などを書きとめていた。<br>・生徒がいものこの葉の変化に気付いたが、その理由が分からないときに「松本さんに聞けば分かるかも」と発言した。<br>・松本さんに質問や、来校の依頼状を書いた。これまでに学んだ手紙の書き方をプリントを見返したり、友達と話し合ったりして、手紙を書いた。 |
| 2　発表会に向けて準備をしよう<br>（９月、１０月<br>５時間） | ・体験したことを基に、進んで新聞作りに取り組む。学　人<br>・友達に自分たちの取組が伝わるように、見出しや記事について伝えたいことの中心を明確にしてまとめる。思判表<br>・映像視聴による自己評価や他者評価を基に、発表の仕方や、発表内容に工夫して練習に取り組む。<br>思判表　学　人 | 国語思判表Ｂ書くこと<br>国語思判表Ａ聞くこと・話すこと<br>職・家Ｂ情報機器の活用<br>理科Ａ生命(ア)(イ) | ・見やすい新聞となるように、写真やグラフなどの視覚的要素を用いた表現の例を実際の新聞を用いて提示したり、一回目の発表で作成した新聞と比較したりしながら作成を進める。<br>・伝えたいことを自分で考え整理し、自分の言葉で読み手に分かりやすく表現できるように「まとめの雛形」を示したり、国語で学習した内容を活用したりする。<br>・これまでの学習経験と照らし合わせ、野菜を観察して気付いた疑問について仮説を立てたり、予想したりして個人の考えを深め、まとめる機会を設定する。 | ・一回目の新聞作りを思い出し「タイトルは〇〇さん」「かぼちゃは××さん」というように、自分たちで納得した役割分担を行うことができた。<br>・本物の新聞の一面を取り上げ、内容によって色分けした。強く伝えたいことが、広い面積をとっていることを確認したことで、「一番大きい記事はいものこだと思う」「菊芋は少な目かな」などの意見が出てきた。<br>・新聞第一号で「花の下にある丸いものがかぼちゃになる」と予想した生徒がいた。その後、全ての丸いものがかぼちゃにならなかった結果を「栄養がいかなかった」「受粉しなかった」と更に予想し、インターネットや専門家へのインタビューにより発見や疑問を解明できた。 |
| 3　発表しよう<br>（１０月、６時間）<br>※本時３／６ | ・教師や友達と一緒に、発表本番での自分の役割を果たす。　思判表　学　人<br>・友達の発表を見聞きして、感想を持ったり、分かったことを伝えたりする。思判表　学　人<br>・事前に立てた目標の達成度合いを自分たちで評価し合う。思判表　学　人 | 国語思判表Ｂ書くこと<br>国語思判表Ａ聞くこと・話すこと<br>職・家Ｂ情報機器の活用<br>職・家Ａ職業生活 | ・意欲的に学習に取り組み、自ら工夫する姿が生まれるように、各時間の目当ての達成が「なりたい自分シート」に書いた目標とする自分の姿とつながっていることを生徒に伝える。<br>・振り返りの観点を確認し、自分たちが発表する様子を撮影した動画を見て、自己評価する機会を複数回設定する。<br>・仲間の発表について具体的な支店で評価できるように、「ここ見てポイント」が記載されたシートと評価してほしい場面が写っている動画を用意する。 | ・「なりたい自分シート」を用いた評価・面談時に、「発表で△△ができたから目標は達成できた」とするふり返りをする生徒が複数名いた。<br>・発表、評価を繰り返すことで、「ここを見る」「ここを評価する」という観点で資料映像を見る姿勢が身に付いてきたことが、視聴後に生徒たちが発表する意見からも感じ取ることができた。<br>・映像を使用したふり返りで、自分が工夫した部分が伝わり、友達に具体的な言葉で評価されたことで、「泣きそう！感動した！」などの言葉や、思わずガッツポーズが飛び出す生徒もいた。 |

**活用する地域資源、活用の仕方**
- 飲食店や野菜の栽培をやっている事業所 a.base から菊芋について教えていただく。
- 地域の農家「松本一美さん」からいものこの栽培方法を教えていただく。
- 清陵学院の栄養士と連携し、収穫した野菜を活用したメニューを考えたり、給食の食材として提供したりする。

**他教科等との関連**

| 国語科 | 自立活動 | 生活単元学習 | 作業学習 |
|---|---|---|---|
| 「身近な漢字や片仮名を書こう」<br>「思いが伝わるように書こう」<br>「美しく正しい文字を書こう」<br>（学習内容）<br>・丁寧に書く<br>・伝えたいポイントを明確にまとめる | 「気持ちを伝えよう」<br>「分かりやすくまとめよう」<br>（学習内容）<br>・感想をまとめる<br>・発表する | 「横手が舞台～ぼくたちのオールファー夢③」<br>（学習内容）<br>・専門家からいただいた収穫物を美味しく調理するためのアドバイスを生かしてメニューを決める<br>・自分たちで考えた調理計画に沿って、道具や器具を安全に扱って調理する<br>・収穫物を給食の食材として提供し、横手清陵学院中学校の仲間にも収穫物を味わってもらう | （農耕班）<br>（学習内容）<br>・野菜の栽培手順を知る<br>・安全な農耕用具の使用方法を知る |

中学部　第３学年２組　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和３年１０月１３日（水）１１：１５～１２：０５
場　所：小・中学部校舎　中学部３年２組教室
指導者：熊谷道大（Ｔ１）　大沼美和子（Ｔ２）

**１　単元名**　横手が舞台　～ぼくたちのオールファー夢②～

**２　目標**

(1)身近な野菜の栽培活動を通し、成長の変化に気付いたり、おいしい野菜を育てるための方法が分かったりする。　知　技

(2)野菜について、取材や栽培活動から分かったことを友達と役割分担して壁新聞にまとめる。　思判表

(3)聞き手に伝わるように、話し方や表現方法について意見を出し合い、工夫しようとする態度を育てる。　学　人

**３　生徒と単元について**

(1)　生徒観

本学級は男子３名女子２名で構成されている。それぞれが気持ちの伝え方に課題意識をもっていることを「なりたい自分シート（「なりたい自分」になるにはどのような要素が必要なのかを、各教科、各教科等を合わせた指導の目標に当てはめて「自分の視点」「他者の視点」から、項目立て吟味したもの)」に記しているが、積極的に学級の仲間や教師と関わっており、中学部最高学年として作業学習や各行事で学部の先頭に立って学習に取り組んでいる。

全生徒に農園芸の経験があり、友達と栽培手順を説明し合ったり手本を見せ合ったりしながら畑作業に取り組んでいる。栽培活動のときには、成育時の変化に気付き、疑問をもったり教師に質問をしたりする生徒もいる。また、一学期には学級の畑での活動で気付いたことや、ゲストティーチャーから学んだこと、インターネットで調べたことなどを壁新聞にまとめ、どのように表現すれば対象とする相手に伝わるのか工夫して同じ学年の友達に発表した経験がある。

(2)　単元観

本単元は、通年で行う地域に学ぶ単元「横手が舞台」の２回目である。地域を「自分たちと関わりのある人と物」と捉え、地元山内在住で農業に精通している松本さん（以下『松本さん』とする）に技術面でのサポートをいただきながら学習素材としていものこを取り上げ、野菜の成長と観察の記録、山内いものこの特徴を新聞にまとめて発表する。

横手市の特産品である山内いものこや、菊芋などの野菜の栽培活動は成長の様子が分かりやすく、収穫の喜びを味わうことができる。生徒の生活経験から栽培したいと上げられたいものこは、地域の人と直接的なやり取りを行う中で専門的知識を得ることができる。

壁新聞作りは自分の活動を写真で振り返ったり、気持ちや考えを文章でまとめたりすることができる。同時に、相手のことを意識した紙面構成を考えることができる。発表活動は、自分の気持ちが相手に伝わるためには何をすればよいか考えたり、工夫したりすることができ、相手の反応を直接感じることができる。

前単元を生かし、この一連の活動に取り組むことで、伝える相手への意識が高まり、話し方や表現方法について協力して工夫しようとする姿が見られると考え、本単元を設定した。

(3)　指導観

野菜の栽培活動について

・繰り返し行う活動に見通しがもちやすいように、計測や水やりなど、担当する役割やペアを固定して分担する。
・高い知識や技能を知ることができるように、松本さんから直接指導を得たり、手紙や電話、オンラインを通じて即時答えていただいたりする機会を設定する。
・変化に具体的に気付くことができるように、丈、色、葉の大きさなど観察時の観点を示す。

壁新聞作りについて

・見やすい新聞となるように、写真やグラフなどの視覚的要素を用いた表現の例を実際の新聞を用いて提示したり、一回目の発表で作成した新聞と比較したりしながら作成を進める。
・伝えたいことを自分で考え整理し、自分の言葉で読み手に分かりやすく表現できるように「まとめ方の雛形」を示したり、国語で学習した内容を活用したりする。
・これまでの学習経験と照らし合わせ、野菜を観察して気付いた疑問について仮説を立てたり、予想したりして個人の考えを深めまとめる機会を設定する。

発表について

・意欲的に学習に取り組み、自ら工夫する姿が生まれるように、各時間のめあての達成が「なりたい自分シート」に書いた目標とする自分の姿とつながっていることを生徒に伝える。
・振り返りの観点を確認し、自分たちが発表する様子を撮影した動画を見て、自己評価する機会を複数回設定する。
・仲間の発表について具体的な視点で評価できるように、「ここ見てポイント」が記載されたシートと評価して欲しい場面が映っている動画を用意する。

## 4　指導計画（総時数 20 時間）

| 単元名・小単元名 | 主なねらい | 活動内容 | 時間 |
|---|---|---|---|
| 1　野菜を育てよう | ・野菜の栽培、収穫、保存方法を知る。 知　技<br>・役割を分担し、協力して活動する。 学　人<br>・植物の成長、変化に気付き、的確に伝える。思判表<br>・上皿はかりを使い正確に重さを量る。 知　技<br>・適切な表現で手紙を書いたり電話でやり取りしたりする。思判表　学　人 | ・作物の収穫や畑の片付けを行う。<br>・成長の変化を記録したり計測したりする。<br>・収穫量を量ったり、気付いたことをまとめたりする。<br>・作物に合った保存方法を検索して実践する。<br>・松本さんからの助言を聞いたり、作物の成長に関する疑問に答えてもらったりする。 | 9 時間 |
| 2　発表会に向けて準備をしよう | ・体験したことを基に、進んで新聞作りに取り組む。 学　人<br>・友達に自分たちの取組が伝わるように、見出しや記事について伝えたいこ | ・分かったことを壁新聞にまとめる。<br>・新聞のよさを理解し、全体の構成や割り付けについて話し合う。 | 5 時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | との中心を明確にしてまとめる。 思判表 | ・自分の役割に最後まで取り組む。 | |
| 3　発表しよう<br> | ・映像視聴による自己評価や他者評価を基に、発表の仕方、発表内容に工夫して練習に取り組む。 思判表 学　人<br>・教師や友達と一緒に、発表本番での自分の役割を果たす。 思判表 学　人<br>・友達の発表を見聞きして、感想をもったり、分かったことを伝えたりする。 思判表 学　人<br>・事前に立てた目標の達成度合いを自分たちで評価し合う。思判表 学　人 | ・相手に伝わるように工夫して発表の練習を行う。<br>・学年の友達の前で自分たちの取組を発表し合う。<br>・自分たちが発表している様子を映像で振り返る。 | ６時間<br>本時<br>（３/６） |

5　他の教科との関連

【生活単元学習】

横手が舞台～ぼくたちのオールファー夢①～
- 野菜の栽培に必要な知識や技能を身に付ける。
- お互いのよさを生かして役割を分担し、協力しながら活動する。
- 専門家から得た、おいしい野菜を育てるためのアドバイスを生かして野菜の栽培を行う。

横手が舞台～ぼくたちのオールファー夢②～
- 松本さんから指導していただいた、いものこをおいしく育てるための手法が分かり栽培する。
- 自分の役割が分かり、野菜の栽培や農家への取材から分かったことを、友達と分担して見やすくて分かりやすい壁新聞にまとめる。
- 聞き手である学部の友達に伝わるように、話し方や表現に工夫して発表する。

横手が舞台～ぼくたちのオールファー夢③～
- 専門家からいただいた収穫物をおいしく調理するためのアドバイスを生かしてメニューを決める。
- 自分たちで考えた調理計画に沿って、道具や器具を安全に扱って調理する。
- 収穫物を給食の食材として提供し、横手清陵学院中学校の仲間にも収穫物を味わってもらう。

【国語科・自立活動等】

国語科「身近な漢字や片仮名を書こう」
「思いが伝わるように書こう」
「美しく正しい文字を書こう」
- 丁寧に書く
- 伝えたいポイントを明確にまとめる

自立活動「気持ちを伝えよう」
「分かりやすく伝えよう」
- 感想をまとめる　・発表する

数学科「合わせていくつ」
- 野菜の生育データを採集する
- 正確な計測・計量をする

作業学習（農耕班）
- 野菜の栽培手順を知る
- 安全な農耕用具の使用方法を知る

職業・家庭科「レベルアップ食生活」
- 三大栄養素が分かる
- 調理器具を安全に使用する

## ５　本時の計画

(1) 本時の目標

・発表会に向けて撮影した練習の様子を映像で振り返り、仲間が「Ⅰ役割に取り組んでいるところ」、「Ⅱ聞き手に楽しんでもらおうと工夫しているところ」に気付き、伝え合う。　学　人

※Ⅰは「自分の役割」、Ⅱは「聞く人に楽しんでもらう」として生徒に示し、それぞれの生徒が目標を定めている。

(2) 個別の目標

| 生徒名 | 本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿） | 評価 |
|---|---|---|
| Ｋ・Ｒ | ・自分の意見に自信をもち、相手に聞こえる声の大きさで仲間の頑張りを伝える。 | |
| Ｓ・Ｓ | ・仲間の顔を見ながら話を聞いたり、うなずいたりしながら話合いに参加し、仲間のよいところや頑張っているところを言葉で伝える。 | |
| Ｔ・Ｙ | ・仲間のよいところや頑張っているところについて、具体的な様子を入れて言葉で伝える。 | |
| Ｎ・Ｍ | ・仲間のよいところや頑張っているところを複数個、具体的な様子を入れて言葉で伝える。 | |
| Ｈ・Ｉ | ・仲間からの誘いを受けて画面を見たり、感想発表の場面では、仲間の意見に同意したりする。 | |

評価について：○本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

(3) 展開

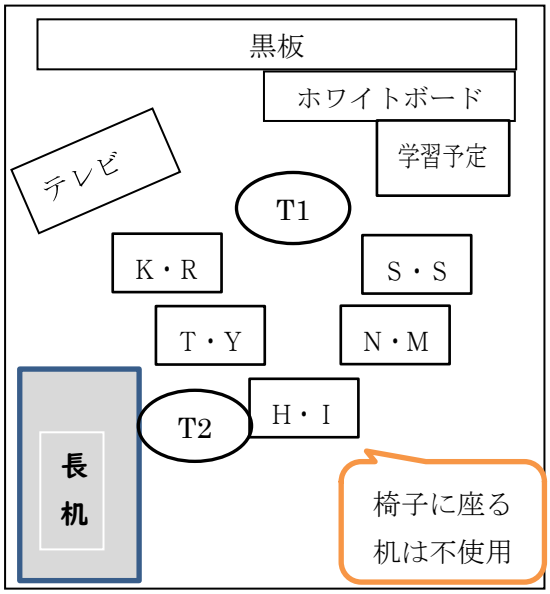
| 段階 | 学習活動 | 指導上の手立て（○）、伝える力に係る手立て(◇) | 準備物 |
|---|---|---|---|
| 導　入<br>（５分） | ・本時のめあてと学習活動を知る。 | ・めあてをタイトルカードで提示する。 | タイトルカード |
| | めあて：発表練習でよかったところ、レベルアップできるところを伝え合う | | |
| | ・ポイントと個人目標を確認する。 | ○レベルアップすることでどのような利点があるか、生徒に質問したり、具体的な場面を設定した発問で考えを揺さぶったりする。<br>○発表でのポイントⅠⅡと、それに関連する個人目標を生徒ごとに顔写真と短冊でホワイトボードに示し、生徒同士が共通認識する。 | ワークシート<br>短冊 |
| 展　開<br>(35 分) | ・映像で発表練習の様子を振り返り、意見を出し合う。<br>竹・優、中・真はタブレットを用いた発表<br>菊・莉、鈴・幸、原・一は紙芝居形式での発表 | ◇（Ｋ・Ｒ）友達が目標達成できているかを視覚的に確認できるように、映像を見る前に注目するポイントを伝えたり、動画を止めて拡大して指さしたりする。また、自信をもって発表できるように、話合いではうなずきながら聞いたり同意したりする。（Ｔ１・Ｔ２）<br>◇（Ｓ・Ｓ）話し合いのルールを守って参加できるように、適時、ルールを確認したり、「発表してる | 話合いルール表<br>テレビ<br>タブレット端末<br>長机<br>シール<br>学習予定 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | 人を見ーまー（す）」と声を掛けたりする。また、「大きい声」などのキーワードの表出やつぶやきの言葉を補ったり言い換えたりする。（Ｔ１）<br>◇（Ｔ・Ｙ）映像視聴での気付きを具体的で分かりやすく伝えられるように、意見のまとめ方の定型例を示す。（Ｔ１）<br>◇（Ｎ・Ｍ）豊富な意見、気付きを友達に伝えられるように、映像を見る前に「発表のポイント」以外の気付きも表記してよいことを確認し、別な色の短冊に書くように伝える。（Ｔ２）<br>◇（Ｈ・Ｉ）仲間の取組を評価できるように「スマイル（いいね）」「ワンアップ（目標達成）」のイラストカードを用意し、一緒に選択して貼る箇所を指さす。（Ｔ２） | 短冊 |
| まとめ<br>（10 分） | ・それぞれの生徒の「よかったところ」「レベルアップポイント」の達成を確認する。 | ○発表本番に向けて気持ちが高まっていくように、お互いが見付けた「よかったところ」を全体で認め合い、大いに称賛する。 | 学習予定 |

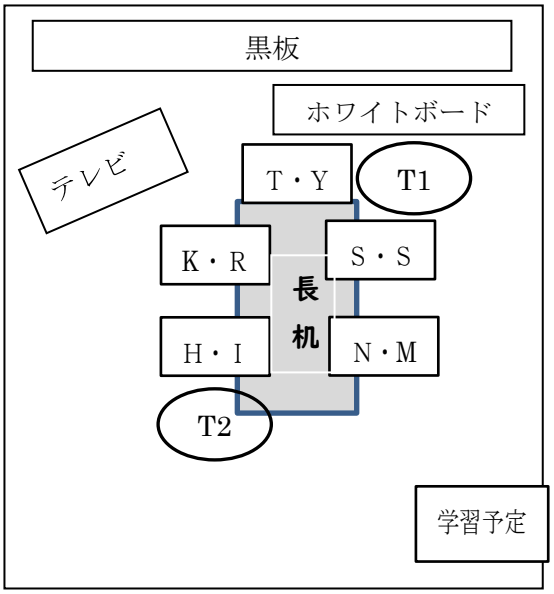
(4) 配置図や教材

〈学習活動〉 ３年２組教室

『　導入　』




『　展開・まとめ　』




(5) 評価の観点

| | |
|---|---|
| 生徒 | ・聞き手により伝わる発表を目指し、仲間の取組のよいところや頑張りを伝え合うことができたか。<br>・画面に意識を向けたり、シールを選択したりして活動に時間いっぱい取り組んでいたか。 |
| 教師 | ・生徒が本時の活動内容が分かって取り組める関りや手立てが用意されていたか。 |

【授業者から】
・昨年度から「横手が舞台」を共通単元として学習を行ってきた学年である。体験したことや専門家へのインタビューを通じて分かったことを、発表会で仲間に伝える活動を経験してきている。
・今年度は地域を「自分たちと関わりのある人や物」と捉え、特産の山内いものこなどを栽培したり、食材の良さを生かした調理を行ったりするために専門家から助言を得た。助言を生かして進めた活動報告や気付き、その後の展望を新聞にまとめて「横手が舞台発表会」で発表した。
・生徒の総意で、お世話になった栄養教諭への謝意を表し、収穫した菊芋は収穫の喜びを仲間に返す貢献活動として学校給食の食材として提供させていただいた。

【グループ協議から】
Ａ評価の視点が多く、振り返りで伝え合う場面を作ることができなかった。「ここ見てポイント」を整理することで、生徒同士で伝え合う場面を作ることができるのではないか。
Ｂ板書の整理や、評価の場面を工夫することで、生徒主体の振り返りをする。
Ｃ「ここ見てポイント」やめあてなどを整理することで、生徒が何を学ぶかがわかりやすくする。
Ｅ書く活動と、話し合う活動があり、活動が多かった。どちらかを次時に回しても良かった。
Ｆ書く活動によって生徒の意見交換がリセットされていた。活発な意見交換ができる実態のために、どんどん話せるようにし、教師が板書等でまとめる。
Ｇまとめの場面で、生徒と教師のやり取りだけでなく、生徒同士で話し合ったり、評価し合ったりする場面を作る。そのために、生徒が「何を今日頑張るか」を明確にする。
Ｈ意欲を高めるために、生徒の意見を発表する場面や個の活動を増やす。
Ｉ「ここ見てポイント」やレベルアップポイントなどのめあてを整理することで、生徒のやることが分かりやすくなる。

【指導助言】
・発表することに重点を置くのではなく、「発表する活動」を通して生徒たちにどんな力を身に付けて欲しいのかが大事にされるべきである。生活単元学習の目標では、「伝えることで、どのようにめあてを達成できるか」がめあてになるべきではないか。例えば、「説明が相手にわかりやすく、楽しんでもらえるにはどんな工夫があればよいか」というめあてにすればなんのために今日の活動をするのかということが分かりやすくなり、この単元で何を育てたいのかが明確になる。
・協力し合ったことを整理し、工夫しながら学んだことを伝えることができる壁新聞はよい教材である。実際に出来上がった壁新聞にはよいことがたくさん書かれていた。書かれている内容を伝えるには、発表だけでなく、クイズにすることも考えられる。クイズを出題することで、自分たちが学習に取り組んできて分かったことや、これまで学習に取り組んできたという、優越感や達成感につなげることができる。
・生徒自身が、こんな力を付けたら分かった、できたという学びの実感につながるよう、単元の中に生徒がやりたいと思う活動を準備できているか検討できるとよい。「なりたい自分シート」を見せてもらったが、「なりたい自分」が本当に生徒のニーズに合致しているのか確認する必要がある。指導する側の思いが強すぎる目標になっていないか検討し、子供たちのニーズを大切にした指導計画を考えていけるとよい。

【単元を通して有効だった手立てと児童の姿】
・小単元の導入部分で、「なりたい自分シート」の記載内容にふれるようにした。この学習が自分の高めたい力とつながっていることを実感できることで、より意欲的に取り組むことができていた。
・「めあて」は、分割したものを生徒が組み立てて提示したり、空欄部分に生徒の言葉を入れて完成したりするようにした。黒板に注視したり、空欄部分に当てはまる言葉を予想して発表したりする姿がどの生徒にも見られた。
・「横手が舞台」を中心単元とし、発表会を定期的に設定したことで、生徒たちが完成までの見通しをもって新聞作りに取り組めた。また、より対象とする相手に伝わるようにと、他の学習場面で学んだプレゼンテーションソフト（KeyNote）を活用して発表する案を出すことができた。
・「伝わること」を意識して学習を積み重ねたことで、他者の発表を聞く際にも聞く観点がもて、発表内容に迫る質問をすることができるようになった。

**中学部の成果と課題（〇：成果、●：課題）**

（１）「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にできる導入

〇１・２年生では、地域のことを知り、知ったことや学んだことを、学校の友達や家族、地域の人たちに伝えるために、興味や関心のあることを質問したり、調べたいことを考える機会を設定したりした。３年生では、学習することが自分の高めたい力につながっていることを伝えたり、地域の方から直接ニーズを聞くことにより、自分たちでできることを考える活動を取り入れたりした。これらが意欲付けになり、単元表を活用することで、自分が今学ぶことや学習のゴールが見え、意欲をもって活動に取り組むことができた。

●外部資源を活用する場合、生徒にとって慣れない人に会ったり、場所を利用したりすることがあるため、行き先や指導を頂く人についての確認の場面が多かった。情緒を安定させて学習に取り組んだり、学習に見通しをもつために、導入では、動画や写真、イラストなどを用いて確認したり、単元計画表でも写真を用いるなどの工夫をしたりする必要があった。

（２）学んだことを活用できるための学習活動の組み立てと手立て

〇地域に出掛けることで、本物に触れ、見て、聞くことができた。そのことにより、新しい知識を増やしたり疑問を解決したりすることができた。また、地域の専門家の方々に来校してもらい、疑問に感じていたことを直接教えていただくことで、本物に触れる機会を得ることができ、学びを深めることができた。同時に、活動報告を聞いて頂くことで達成感を味わうことができた。両方の取組とも、生徒にとって主体的に「伝えたい」という気持ちが高まるきっかけとなった。

その後の学習活動では、どのように伝えれば効果的か考えたり、相手に合わせて言葉を選ぶ様子が見られたりした。実際に学んだことを伝える場面では、話し方や書き方、姿勢などに気を付ける姿が見られた。加えて、ICT 機器の活用も取り入れ、プレゼンテーションアプリ（PowerPoint、Keynote）の編集方法を覚え、活用することができた。

●自分たちの学んだことを伝えたり、地域のニーズに応え貢献しようとしたりする活動は、導入段階では相手のことを意識しているが、学習活動を重ねるうちに目的が制作活動そのものになってしまいがちだった。単元の中間評価として、相手からの評価などがあれば活動意欲を高めたり、本来の目的を再度意識したりして活動できると考える。また、地域の外部資源を活用する場合、相手のある活動のため、連絡や活動の調整を頻繁に行う必要がある。さらに、今年度は新型コロナウィルス感染症拡大のため、学習活動が当初の計画通り進まなかったり、学習活動の変更があったりした。次年度は、それらのことを想定した学習活動を計画する必要があると考える。

（３）学びを実感できる振り返りや単元のまとめ

〇授業では、本時の学習活動で完成したものを評価し合ったり、ＩＣＴ機器を活用して、本時の学習の軌跡を振り返ったりした。

単元のまとめでは、学校の友達や教師、保護者、地域の方々など、様々な相手に学びを伝えるために、制作したものや学習のまとめを教室前に掲示したり、ホームページに掲載したりした。そして、各学年で、発表会として伝え合う機会を設定した。友達から直接評価してもらう場面が設定でき、発表するときに気を付けることを、意欲的に考えたり、練習に取り組んだりすることができた。また、伝える相手が明確だったことから、相手に合わせた言葉選びや発表の工夫をしようとする姿も見られた。

今年度の取組を通して、横手に関する知識が増えたことにより、自分たちが生活している「横手市」について関心が高くなった。１・２年生は、美術の時間に校外学習で訪れた場所や学習で学んだことを題材に版画を制作した。また、総合的な学習の時間のかまくらでのおもてなし練習の場面では、学習したことを思い出して話をする様子が見られた。３年生は、自分の考えを友達や教師に伝える姿が見られるようになった。年に３回「横手が舞台」をテーマにした発表会に取り組んだことにより、自分たちの学びを「伝える」ためには、どのようにすればよいのか具体的に考え、学級内で発表方法に注目した意見を提案したり、発表場面で他の学習場面で学んだプレゼンテーションアプリを活用したりすることができた。また、発表を聞く立場のときも、回を重ねるに連れ、友達の発表の内容にも耳を傾け、発表内容に迫る質問をする姿が見られた。

●地域の専門家の方から学んだ知識の実際の場面を見学したり、自分たちが制作したものがどのように生かされているか確認したりできないまま終えた単元があった。本物を見て確かめることが、手立てとして効果的な場合は、まとめの段階で地域に出かけるなどの活動を設定する必要があると考える。

●多くの場面で、学びを伝えるためにＩＣＴ機器を使用した。しかし、使用している機器の操作が難しいと考えられる生徒もいた。ＩＣＴ機器にこだわらずに生徒によって発表方法を変えたり、生徒が自ら操作をしたりすることで、相手に伝えたことを実感できるような教材研究に努める必要がある。

## Ⅲ　高等部の実践

＜生徒の実態＞

コミュニケーションに関しては、言葉による意思疎通ができて会話を楽しむ生徒から、補助的に絵カード等を使用している生徒、表情や体の動きで気持ちを伝える生徒と様々である。

人との関わりに関しては、学級・学年の友達や教師と会話したり、協力したりすることに始まり、学部全体との関わり、他学部との関わりへと、学年が上がるにつれて広がってきている。また、目標やすべきことが分かると、経験を生かして自分たちで取り組もうとする姿や、相手のことを考えて行動する姿へと、考え方と関わり方の幅が広がっている。しかし、校外の人との関わりや、初対面の相手や初めて経験する出来事になると、受動的であったり消極的であったりするため、経験を積み重ねながら積極性を育んでいきたいところである。

＜目指す姿＞

第一に、「分かった」「できた」という成功体験や、時には失敗体験を積み重ねながら自分の考えをもち、それらを自分なりの方法で理解したり伝えたりする。第二に、相手の考えを聞いて、返事や相づちを打って考えに同意したり、自分の考えと比較をしたりして、自分の考えを深める。以上の姿を目指し、思いを伝え、人と関わることを繰り返すことで、伝える力を高めていきたい。

### 各学級の実践

| 高等部１年１組 | 単元名 | フラワープロジェクト２～しおりを作ってプレゼントしよう～ |
|---|---|---|
| 【生徒の実態】<br>・中学部の生活単元学習での経験から、声の大きさや自分の考えをまとめ、わかりやすい言葉で話をすることなどが相手に伝えるために必要だということを理解している。<br>・フラワープロジェクト１では、自分たちで育てたい花を選択し育てた。育てた花についてや花を飾るための工夫について、写真やレポートにまとめ発表した。発表を振り返り、声の大きさが不足していることや役割分担して発表することが協力につながったことに気付くことができた。 | | |
| 【単元目標（単元を通して育てたい力）】<br>・使う人の気持ちを考えたり、デザインの工夫を考えたりしながらしおりを作る。　知　技<br>・どのような形のしおりにするか相談したり、各工程を役割分担したりしながら、責任をもって活動する。　思判表<br>・自分たちの取組をまとめ、しおりをどのような人たちに活用してもらうか考える。　学　人 | | |
| 【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】<br>・自分の作りたいしおりのデザインや、一般的にどのようなしおりがあるのかをイメージしやすいようにタブレット型端末（iPad）を使用して調べ、デザインのテーマを決めて取り組んだ。具体的な写真やテーマを参考にしてしおりのデザインを考えたことで、「季節を考えたしおり」や「押し花をいかすことができる色使い」などのデザインの工夫を主体的に考えることができた。<br>・デザインカードを使って話し合う場面を設定したことで、デザインで工夫した部分を生徒同士で伝え合ったり、友達のしおりをもっとよくするためのアドバイスなどをし合ったりする姿が多く見られた。 | | |

| 高等部１年２組 | 単元名 | フラワープロジェクト２～キャンドルを作ろう～ |
|---|---|---|

【生徒の実態】
・中学部から入学してきた生徒については、近隣の保育園児に絵本の読み聞かせをする学習をしてきている。その経験から、相手のことを考えた伝え方や、自分たちでできることを考えて行動することに対して、自信をもてるようになってきている。また、他校から入学してきた生徒については、不登校傾向であったことから、集団活動や地域での活動の経験に慣れていないところはあるものの、学級集団の中での関わりが増え、徐々に大きな集団の中での活動に慣れてきている。
・フラワープロジェクト１では、花を植え、育てた。育てた花について新聞を作って発表した。人前に立ったり、適切に話したりすることに苦手意識があるものの、学級全員で協力するという経験を積むことができた。

【単元目標（単元を通して育てたい力)】
・育てた花を押し花にする方法が分かり、その押し花を活用してキャンドルを作る。 知　技
・自分の役割として、キャンドルのデザインを考えながら制作したり、ラッピングの台紙作りをしたりする。 思判表
・作ったキャンドルをどのように活用していくか考えたり、取り組んでいることを学部や学校等に伝える方法を考えたりする。 学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・単元の全体計画や具体的な数字を掲示することで、目標個数達成のために本時では〇個作るということを、生徒が毎時間考えて取り組んだ。
・本時の振り返りの中で、次時はどうするか提案しておくことで、次時では、個々に本時のめあてを考えたり、前時のよかったところを繰り返そうという考えをもって行動したりできた。
・ふるさと村で手作り体験（ジェルキャンドル）をしたことで、自分の好みだけでなく、相手への見せ方をよくしようという視点でデザインを考えることができるようになった。
・制作活動においては、同じ役割を継続したことで、使用する物を自分で準備することができるようになった。
・かまくらに関する調べ学習と単元のまとめ学習を通して、何ができたか、何をしてきたかを整理するとともに、来年度は何をしたいかという期待感をもつ生徒もいた。

| 高等部２年１組 | 単元名 | 発見！体験！秋田の魅力～修学旅行へＧｏ～ |
|---|---|---|

【生徒の実態】
・昨年度は十文字と増田、今年度は山内の伝統工芸や特徴的な施設、文化財について体験や見学を行い、横手のよさを学んできた。見学・体験して気付いたことや感じたことなどを言葉で伝えたり、写真をもとに指さしして伝えたり、学んだことを相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのか考えて発表したりするようになってきた。

【単元目標（単元を通して育てたい力)】
・秋田県県北地域の施設や特産品等について、資料や修学旅行を通して知り、横手と県北地域のそれぞれのよさが分かる。知　技
・調べ学習や体験活動を通して、友達と協力したり、役割分担したりして学んだことを具体的に表現する。思判表
・横手と県北地域のそれぞれのよさや違いから、自分たちが住む秋田県や横手市を誇りに思う気持ちをもつとともに、学んだことをこれからの生活に生かそうとする。学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・単元の導入では横手市と県北地域の地理的位置を提示したり、写真を使って県北地域の特産品や伝統工芸、伝統芸能、施設等を紹介したりすることで、県北地域への興味や修学旅行への期待感を高めることができた。
・文書作成アプリ（Pages）を使って修学旅行のしおりを作成した。しおりを作成する活動を通して情報を整理し、完成したしおりを紹介し合うことで見学・体験先の知識を得ることができた。また、しおりを活用して写真や文章で修学旅行を振り返ることで、自分の学びや気付きを整理し、県北地域のよさへの理解が深まった。
・単元のまとめとして、１・３年生への修学旅行報告会を行った。修学旅行報告会では、自分たちが経験したことについて写真を使って紹介したり、演じたりするなど、どんな方法で報告すれば相手に伝わるのかを考えて発表しようとする姿が見られた。また、報告会の中に参観者からの感想発表の活動を設定し他者からの評価を伝えることで、伝わったことへの達成感を感じることができた。

| 高等部２年２組 | 単元名 | 発見！体験！秋田の魅力～修学旅行へＧｏ |
|---|---|---|

【生徒の実態】
・友達や教師と会話を楽しめる生徒や、発音が不明瞭で補助的に絵カード等を使用している生徒、自分の気持ちを簡単な言葉で伝える生徒と様々である。
・今年度「横手大学②～平鹿地域文化体験編～」として、平鹿地域の自然や特産物、文化等について、資料やインターネットで調べたり、平鹿地域に伝わる鍋倉囃子を体験したりした。伝えたい内容を自分たちで取捨選択し、伝える相手を考えてクイズ形式で発表した。平鹿地域の歴史や取組、携わる方の気持ちに触れ、自分の住む地域のよさを実感できた。

【単元目標（単元を通して育てたい力)】
・秋田県県北地域の地理的環境や施設、特産品について、様々な資料や修学旅行を通して知り、横手と県北地域のそれぞれのよさや違いが分かる。知　技
・調べ学習や体験活動を通して、友達と協力したり、役割分担したりして学んだことを具体的に表現する。思判表
・横手と県北地域のそれぞれのよさや違いから、自分たちが住む秋田県や横手市を誇りに思う気持ちをもつとともに、学んだことをこれからの生活に生かそうとする。学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・導入部分で、めあての提示と共に、本時のまとめについてワークシートを用いて視覚的に伝えた。授業の中で、生徒が話し合う内容が分かり、話合いで出た意見をどのようにまとめればよいかが分かり、活動に取り組むことができた。
・しおりはタブレット型端末（iPad）の文書作成アプリ（Pages）を用い、一人で作成した。文字や絵等を書くことに苦手意識がある生徒が意欲的に取り組み、達成感を得ることができた。
・生徒から出た意見をホワイトボードや付箋紙等に記入したことで、意見を視覚的に整理でき、同じ意見でまとめたり、異なる意見を分けたりしながら、グループとしての意見を一つにまとめることができた。

| 高等部３年２組 | 単元名 | 雪まつりのために何かし隊 |
|---|---|---|

【生徒の実態】
・友達とのやりとりの面での実態差は多少あるものの、言葉でコミュニケーションをしたり、友達からの誘いかけを受けて一緒に活動したりできる。
・昨年度は横手市の発酵食文化についてグループに分かれて調べ、同じ学年の友達同士で発表し合ったり、修学旅行での経験を他校にＤＶＤを通して紹介したりした。
・今年度は学校や地域のためにできることとして、学校行事に向けた奉仕活動、地域行事に関連させてできることを生徒が企画して取り組んだ。

【単元目標（単元を通して育てたい力)】
・雪まつりのためにどんなことができるかを考えたり、これまでの学習や自分たちの得意なことを生かしてできることを話し合ったりする。知　技　思判表
・活動する目的や対象の相手を意識しながら、友達と協力して活動する。　学　人

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】
・年間を通して「〇〇のために」というテーマで活動の目的を考えながら取り組んできたことで、スムーズに話合い活動に取り組むことができた。
・雪まつりの概要や過去の活動写真を提示することで、具体的な活動をイメージして意見を出したり、話合いをしたりすることができた。
・校内でのかまくら制作では、生徒同士で声を掛けあったり、役割分担したりして活動に取り組み、見てくれる人のためだけでなく、自分たちも楽しんで活動する姿が見られた。

# 【高等部　３年　１組】単元名：ＩＬＯＶＥ横手に役立ち隊！読み聞かせプロジェクト①　（１５時間）

**生徒の実態**
- 男子５名、女子４名の学習集団である。
- 発音の明瞭さや意思の伝え方等、友達とのやりとりの面での実態差は多少あるものの、全員言葉でのコミュニケーションが可能である。
- 生徒同士の意見交換の場面では、積極的に意見を出すことができる生徒がいる一方、自分の意見に自信がなかったり、伝え方が分からずに発言できなかったりする生徒がいる。また、ときには友達の意見に対して否定的な発言をしたり、一方的に自分の意見を通そうとしたりする姿も見られる。
- 本学級の生徒は、１、２年生では横手やきそばや横手市の発酵食文化について調べ、地域のよさや魅力について知ることができた。今年度は、これまでの学習から、横手のために役立ちたいという思いが芽生え、自分たちができることとして「クリーンアップ活動」や「読み聞かせ活動」などのアイディアが出された。
- 読み聞かせ活動については、中学部経験している生徒や、「おはなし大好きの会」の読み聞かせを見聞きした生徒がおり、大まかなイメージはもっている。

**単元目標（単元を通して育てたい力）**
- 小学部４，５年生が楽しめる読み聞かせをするために、読み聞かせの仕方（絵本の持ち方、読み方など）を学んだり、児童が興味をもって見聞きできるような工夫を考えたりし、読み聞かせ活動に生かす。知　技
- 読み聞かせ会に向けて意見交換をしたり、役割分担し協力して準備や練習をしたりすることでお互いを認め合い、助け合いながら活動する。思判表　学　人
- 相手に喜ばれる体験を通して、自分たちの活動が身近な人の役に立つことを実感する。学　人

**目標達成につながる主な学習活動と学び方**
- オリエンテーション（方法、日時の確認）
- 小学部４，５年生との交流会に向けた準備活動、児童との交流会
- 読み聞かせの仕方を学ぶ

**読み聞かせ準備や練習**

**伝える活動**
- 本の選定、役割分担等の話合い活動、練習後の振り返りでの意見交換
  読み聞かせ会の実施、読み聞かせ会後の感想発表

本単元の概要①本単元では「ＩLOVE 横手に役立ち隊」の活動の一つとして、「読み聞かせプロジェクト①」を行い、小学部児童を対象にした読み聞かせ会を計画し、実施する。
②相手を意識した読み聞かせができるように、小学部児童との交流を行い、本の選定や読み聞かせの方法を話し合う。
③グループごとに役割分担をしたり、読み聞かせの工夫、練習の中での改善案の話し合いをしたりすることで、友達同士協力して活動する姿を引き出したいと考える。
④一連の活動を通して、自分たちの活動が誰かの役に立っているという有用感を味わい、次の活動への意欲につなげたいと考える。

| 小単元名<br>（実施時期、時数） | 小単元（一単位時間）<br>のねらい | 学習内容 | 主な手立て | エピソード |
|---|---|---|---|---|
| ①「読み聞かせプロジェクト①」について知ろう<br>8/26　6校時 | ・読み聞かせ会の目的や内容を知り、活動に見通しをもつ。<br>知　技 | 国中Ａ聞くこと話すこと<br>自活２心理的な安定 | ・読み聞かせ活動について見通しをもつことができるように、学習予定表を提示する。 | ・（読み聞かせなら）「小学部低学年がいいな」<br>「小学部４、５年生はいろいろ知っているから（読み聞かせについて）考えるのが難しそう･･･」 |
| ②読み聞かせの相手を知ろう<br>「小学部4，5年生との交流会をしよう<br>8/27　5校時<br>8/30　6校時 | ・小学部４，５年生が楽しめる読み聞かせにするためには、どんな絵本がよいか考え、絵本を決める　思判表 | 国高（Ａ）聞くこと話すこと | ・小学部４，５年生との交流会を通して、好きなことや好きな絵本を知り、読み聞かせ活動に生かすことができるように、交流会の内容に、自己紹介や好きな本を紹介してもらうコーナーを設定する。<br>・友達と安心して意見を伝え合うことができるように、２グループに分ける。 | ・「ジェスチャーゲームなら４、５年生も分かりそう。」<br>・「ジェスチャーゲームは飼育員になって、動物をテーマにしたい。そうすれば４、５年生も楽しめるかも」という積極的な提案<br>・【交流会】クイズの答えを考えている間に流れる音楽で楽しげに踊り、会を盛り上げようとした。 |
| ③読み聞かせの絵本を選ぼう<br>9/1　5校時 | ・読み聞かせのポイントを知る。<br>知　技<br>・「小学部4，5年生が楽しめること」をテーマに、話し合いながら絵本を選ぶ。思判表 | 国高（Ａ）聞くこと話すこと<br>家（Ａ）家族・家庭生活 | ・読み聞かせのポイントを意識することができるように、板書に掲示したり、まとめの時間にポイントの確認する。<br>・話合いをしながら読み聞かせの絵本を選ぶことができるように、グループを２つに分ける。 | ・インタビューをしている動画や実際に読み聞かせをしている動画を手掛かりに、絵本を選ぶポイントは「繰り返しのせりふが多いこと」が分かり、ポイントをもとに絵本を選んだ。 |
| ④読み聞かせ会の準備をしよう<br>9/3　5校時<br>9/6　6校時<br>全2時間 | ・基本的な読み聞かせの仕方を知る<br>知　技<br>・読み聞かせの仕方をもとにして、読み聞かせの方法や役割分担を決め、準備する。思判表 | 国高（Ａ）聞くこと話すこと<br>自活３人間関係の形成 | ・読み聞かせの基本的な仕方に気付くことができるように、教師が読み聞かせをしているところ（よくない例）とボランティア団体が読み聞かせをしているところ（よい例）を比較する。<br>・生徒一人一人の得意なことを生かすことができるように、グループで話し合って役割分担する時間を設定する。<br>・スムーズに読み進めることができるように、読み方と読むタイミングを合図する。<br>・お互いに読み聞かせの成果や課題を出し合い、改善案を考えることができるように、練習のの動画を撮影する。 | ・「『大きなかぶ』は小学部で学習したことがあるから、内容が分かるように全部オリジナルのキャラクターじゃなく、『おじいさん』、『おばあさん』、『ねこ』に絞って役を考えた方がいいと思います。」<br>・「車掌のアナウンス（「次は〇〇～」の部分）は、僕がやりますよ。」<br>・絵本を読み進める部分はページに名前（読む担当）を書いた付箋を貼り、分担しながらを読む練習をした。 |
| ⑤読み聞かせ会の練習をしよう<br>9/8　5校時<br>9/10　5校時<br>9/13　6校時<br>9/15　5校時<br>9/22　5校時<br>全5時間 | ・読み聞かせについて学んだことを実践に生かす。<br>知　技　思判表<br>・読み聞かせの実践を振り返り、友達のよいところを認めたり、さらによくするための方法を考えたりする<br>思判表 | 国高（Ａ）聞くこと話すこと<br>情（Ａ）情報社会の問題解決 | ・話合い活動をスムーズに行うことができるように、進行カードを作成する。<br>・読み聞かせのよかった友達や頑張りたいことを自分の言葉で伝えることができるうに、友達の写真カードやイラストなどを用意する。<br>・ポイントに着目して動画を視聴することができるように、授業の最初に読み聞かせのポイントを再確認したり、話合いの際にも掲示をしたりしておく。<br>・話合いで出た意見を共有することができるように、表を用意し、一覧で掲示する。 | ・読み聞かせの練習に入る前に、基本的な読み聞かせの仕方（絵本の持ち方、話し方、ページのめくり方など）を確認した。机を利用して目線の高さで絵本を持つなど、読み聞かせの仕方を意識した練習を行った。<br>・読み聞かせの仕方に基づいたレベルアップポイントを確認した。場面に合った声の出し方（ねことゾウで声色を変化させるなど）に注目し、自分なりに工夫した練習を行った。練習後は、各グループで読み聞かせの動画を撮影した。<br>・相手グループの読み聞かせを見て、良かった意見を中心に意見を伝えた。「〇〇さんがもっと登場人物に合わせた声を出すとよい」と、レベルアップポイントに着目した、「ダメ」ではなく建設的な意見が出された。<br>・「最後のバンザイ（大きなかぶが抜けた場面）は手を伸ばして、もっと大きな声で言おう」とレベルアップポイントに着目した話し合い、場面練習ができた。 |
| ⑥読み聞かせ会をしよう<br>9/24　5校時 | ・相手を意識して、小学部4，5年生が楽しめる読み聞かせをする。知　技 | 国高（Ａ）聞くこと話すこと<br>国高（ア）読むこと<br>自活６コミュニケーション | ・読み聞かせ会をスムーズに進めることができるように、進行カードを用意する。<br>・振り返り活動に生かすことができるように、読み聞かせの感想を話す場面を撮影する。 | ・役割を基に、小学部４、５年生との読み聞かせ会に取り組んだ。３年１組の読み聞かせに合わせてせりふを話したり、「またお願いします」と感想をもらったりすることができた。 |
| ⑦読み聞かせ会を振り返ろう<br>9/27　5校時<br>9/29　5校時<br>10/1　6校時<br>全2時間 | ・小学部4、5年制の表情や反応、自分たちができるようになったことに気付き、達成感を得る。<br>学　人<br>・自分の役割を果たすとともに、友達と助け合いながら活動できたことに気付き、他社に発信する方法を考えて実践する。知　技　思判表 | 情（Ａ）情報社会の問題解決<br>国中高（Ｂ）書くこと | ・振り返りで成果と課題を出しやすいように、読み聞かせの動画と小学部４、５年生からの感想を流す。<br>・どのような掲示を作ってまとめればよいかイメージしやすいように、新聞作りなどこれまで行ってきたことを紹介する。<br>・スムーズに掲示物の制作ができるように、事前に制作の役割を決めておく。 | ・読み聞かせ会の様子を動画で見て、読み聞かせを聞いている４、５年生の反応を中心に意見を出し合った。<br>・「〇〇さんがずっとニコニコして聞いていた」「４、５年生がかわいい！」 |

| 活用する地域資源、活用の仕方 | 他教科等との関連 | | | |
|---|---|---|---|---|
| ・小学部４，５年生<br>読み聞かせ会の様子を撮影し、振り返りに活用する。小学部の児童の反応を見て、自分たちの読み聞かせがどうだったのかを評価し、次回の読み聞かせに生かせるようにする。<br>・れんげ草の会<br>読み聞かせの様子を動画で視聴し、絵本の持ち方や読み方などの読み聞かせの仕方を学ぶ。 | 国語科「新聞を読もう」<br>（活動内容）<br>・文章の書き方<br>・書きたいことについての内容の考案<br>（←生単へ）<br>・自分たちの活動を発信するための掲示物作り<br>・読み聞かせ活動をまとめた掲示物の制作 | 自立活動「自分の気持ちを伝えよう」<br>（コミュニケーション）<br>（活動内容）<br>・文法体系（５H１W）に沿った伝え方<br>・状況に応じたコミュニケーション<br>（←生単へ）<br>・話合い活動<br>・リハーサル後の意見交換会 | 生活単元学習「ＩLOVE 横手に役立ち隊<br>～クリーンアッププロジェクト①～」<br>（活動内容）<br>・企画会議での話合い活動<br>・地域でのクリーンアップ<br>・クリーンアップ新聞の制作 | 家庭科「乳幼児の生活」<br>（活動内容）<br>・乳幼児の生活の特徴の理解と望ましい接し方の実践<br>・保育園訪問<br>（←生単へ）<br>・交流会を通した小学部４、５年生の好きな絵本の把握 |

# 高等部　３年１組　生活単元学習　学習指導案

日　時：令和３年９月１５日（水）１２：５５～１３：４５
場　所：高等部校舎３年１組教室、２階学習室
指導者：藤平裕太（T1）　池部和美（T2）
水谷智子（T3）　工藤彩（T4）

## １　単元名　「ILove 横手に役立ち隊！読み聞かせプロジェクト①」

## ２　目標

(1) 小学部４、５年生が楽しめる読み聞かせをするために、読み聞かせの仕方（絵本の見せ方、読み方など）を学んだり、児童が興味をもって見聞きできるような工夫を考えたりし、読み聞かせ活動に生かす。 知　技
(2) 読み聞かせ会に向けて、意見交換をしたり、役割分担し協力して準備や練習をしたりすることでお互いを認め合い、助け合いながら活動する。思判表 学　人
(3) 相手に喜ばれる体験を通して、自分たちの活動が身近な人の役に立つことを実感し、友達と一緒に積極的に行動する。学　人

## ３　生徒と単元について

(1) 生徒観

本学級は男子５名、女子４名の学習集団である。コミュニケーションの面では発音の明瞭さや意思の伝え方など、やりとりの面で実態差はあるものの、全員が言葉でのコミュニケーションが可能である。生徒同士の意見交換の場面では、積極的に意見を出すことができる生徒がいる一方、自分の意見に自信がなかったり、伝え方が分からずに発言できなかったりする生徒がいる。また、ときには友達の意見に対して否定的な発言をしたり、一方的に自分の意見を通そうとしたりする姿も見られる。

１学期に行ったクリーンアッププロジェクト①では、二つのグループに分かれて活動した。グループごとの話合い場面では、少人数になったことで、今まで意見を出せなかった生徒が発言できるようになった。また、クリーンアップ本番では、友達同士で声を掛け合いながらごみを拾ったり、拾ったごみを見せ合ったりする等の姿が見られ、仲間を意識し、目標に向けてみんなで取り組もうとする気持ちをもつことができるようになってきた。

(2) 単元観

高等部１、２年生では、横手焼きそばや横手の発酵食文化など、地域について調べ、地域のよさや魅力について知ることができた。３年生では、これまでの学習を通して、横手のために役立ちたいという思いが生徒たちに芽生えた。自分たちができることとして、「クリーンアップ活動」や「本校小学部の児童や、地域の幼稚園児、保育園児を楽しませたい。」などの意見が出された。そこで本学級では、「ILove 横手に役立ち隊プロジェクト」を立ち上げ、１学期にはクリーンアップ活動を行った。２学期は、身近な子どもたちを楽しませるための活動として、生徒たちから読み聞かせ活動が提案され、「読み聞かせプロジェクト①」を実施することとした。

「読み聞かせプロジェクト①」では、小学部生を対象とした読み聞かせ活動を行う。後期に予定している「読み聞かせプロジェクト②」では、地域の幼稚園や保育園に向けての読み聞かせ活動を計画している。小学部生への読み聞かせの体験から、活動に見通しをもつとともに、自分たちの活動が相手に喜ばれることを実感し、校外での活動に自信をもって取り組んでもらうことができるようにしたいと考える。小学部生への読み聞かせでは、絵本に興味をもつ児童が多く、絵本を取り入れた学習にも多く取り組んでいる小学部４、５年生を対象とすることとした。

読み聞かせ活動は、相手の反応や表情などが分かりやすい。そのため、相手を意識した読み方や表現の工夫を考え、練習や発表に生かすことができる。さらに、絵本の選択や読み聞かせの方法、役割分担などの話し合い、練習、発表、振り返りなど一連の活動を通して、自分の役割に責任をもって活動に取り組んだり、友達の発表のよいところに気付き、お互いに自分の考えたことを伝え合ったりすることができると考える。

また、音読や声真似など、生徒一人一人の得意なことを生かすことができる。話し合い活動では、自分の考えを友達に伝えたり、友達からのアドバイスを受け入れたりする中で、お互いを認め合い、助け合って活動する姿が高まると考える。さらに、読み聞かせ会では、小学部４、５年生が楽しんだり、喜んでいたりする姿を実際に見ることで、さらに自分たちの活動が周りの人に役立ったという有用感をもち、それが、今後、身近な人の役に立ちたいという気持ちを高めることができるのではないかと考え、本単元を設定した。

(3) 指導観

小学部４、５年生が楽しめる読み聞かせをするために

・小学部４、５年生と交流会を行い、対象となる児童について知る機会を設定する。
・読み聞かせの仕方を学んだり、興味をもって見聞きしてもらえるような工夫を考えたりすることができるように、小学部４、５年生の担任による読み聞かせ場面や、参考となる動画の視聴をする時間を設定する。
・聞き手を意識して読み聞かせができるように、学級を二つのグループに分け、お互いのグループの読み聞かせを見合い、意見を出し合う機会を設定する。

自分の思いや考えを伝え合いながら話合いをするために

・安心して自分の考えを伝えることができるように、少人数のグループに分けるとともに、意見を出すポイントを明確に提示する。
・生徒から出た意見をホワイトボードで視覚化し、共有できるようにする。

友達を認め合い、助け合いながら活動できるように

・生徒同士で意見を出し合い、一人一人の得意なことを生かした読み聞かせ活動の方法や役割を決めるとともに、自分の役割に責任をもって取り組めるようにする。
・動画を見ながら友達のよいところを見付け、みんなで認め合う場面を設定する。
・友達同士で声を掛け合ったり、助け合ったりしている場面が見られたら即時的に称賛し、学習の振り返りでみんなで共有できるようにする。

自分たちの活動が身近な人の役に立つことを実感できるように

・小学部４、５年生の表情や反応、感想等を撮影した動画を見る機会を設ける。

## ４　指導計画（総時数１５時間）

| 小単元名 | 主なねらい | 活動内容 | 時間 |
|---|---|---|---|
| １「読み聞かせプロジェクト①」について知ろう。 | ・本単元の目的や内容を知り、活動に見通しをもつとともに、小学部のための読み聞かせ会にしようとする意欲をもつ。<br>知　技　学　人 | ・読み聞かせ活動の内容や日程を知る。 | １時間 |
| ２　読み聞かせの相手を知ろう<br>「小学部４、５年生と交流会をしよう」 | ・小学部４、５年生の児童の顔と名前、興味のあること、好きな本などを知る。<br>思判表　学　人 | ・小学部４、５年生のことを知り、相手が楽しめるような交流会の内容を話し合う。<br>・交流会で必要な物を準備する。<br>・小学部４、５年生の好きな絵本についてインタビューする。 | ２時間 |
| ３　絵本を選ぼう | ・小学部４、５年生が楽しめる読み聞かせにするためには、どんな絵本がよいか考え、絵本を決める。<br>思判表 | ・小学部４、５年生の担任からの聞き取りを基に、小学部４、５年生が好きな絵本の共通点を考える。<br>・小学部４、５年生が読み聞かせを聞いている様子を動画で視聴する。<br>・「繰り返しのせりふがある。」、「参加型で楽しめる。」などのポイントを基に絵本を選ぶ。 | ２時間 |
| ４　読み聞かせの仕方を学ぼう | ・基本的な読み聞かせの仕方を知る。知　技 | ・絵本の持ち方や、読み方、ページのめくり方など読み聞かせの基本について見本の動画を見て学ぶ。<br>・学んだことを実践する。 | １時間 |
| ５　読み聞かせの準備をしよう | ・小学部４、５年生が楽しめる読み聞かせにするための工夫を考え、読み聞かせ活動に取り入れる。<br>思判表 | ・相手に興味をもってもらうための工夫について話合う。<br>・役割分担を決める。<br>・必要な物を準備する。 | ２時間 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 6　読み聞かせ会の練習をしよう | ・読み聞かせについて学んだことを実践に生かす。 知　技　思判表<br>・読み聞かせの実践を振り返り、友達のよいところを認めたり、さらによくするための方法を考えたりする。知　技　思判表　学　人 | ・読み聞かせについて学んだことを意識しながら練習する。<br>・自分たちの読み聞かせの様子を動画で振り返る。<br>・よかったところや、課題を発表し、グループで共有する。<br>・課題に応じた練習をする。 | ４時間<br>(本時10/15) |
| 7　読み聞かせ会をしよう | ・相手を意識して、小学部４、５年生が楽しめる読み聞かせをする。<br>知　技　思判表 | ・グループごとに小学部４、５年生に読み聞かせをする。 | １時間 |
| 8　読み聞かせ会を振り返ろう | ・小学部４、５年生の表情や反応、自分たちができるようになったことに気付き、達成感を得る。<br>学　人 | ・練習時の読み聞かせを撮影した動画と本番の読み聞かせを撮影した動画を見比べる。<br>・小学部４、５年生の表情や反応、感想等を撮影した動画を見る。<br>・読み聞かせ活動をまとめた掲示物を作成し、一連の活動を振り返る。 | ２時間 |

他の教科との関連

【生活単元学習】

「学校行事を盛り上げ隊～運動会編～」

「ILove 横手に役立ち隊
～クリーンアッププロジェクト～」

「ILove 横手に役立ち隊
～読み聞かせプロジェクト①～」(本単元)

「ILove 横手に役立ち隊
～読み聞かせプロジェクト②～」

【国語科・自立活動等】

国語科
「新聞を読もう」

自立活動
「自分の気持ちを伝えよう」

家庭科
「乳幼児の生活」

## ５　本時の計画

(1) 本時の目標

・読み聞かせの実践を振り返り、友達のよいところを認めたり、さらによくするための方法を考えたりする。知　技　思判表　学　人

(2) 個別の目標

| 生徒名 | 本時の主たる目標（期待する具体的な学びの姿） | 評価 |
|---|---|---|
| A | ・レベルアップポイントを参考に、よかった点や課題について、自分の考えを発表する。 | |
| B | ・友達のよかった点を見付け、自分からグループの友達に伝える。 | |
| C | ・レベルアップポイントに応じた課題を見つけ、レベルアップするための方法を友達に伝えたり、実際にやって見せたりする。 | |
| D | ・友達のよかった点に気付いて自分から発言したり、友達の意見を受け入れたりする。 | |

| | | |
|---|---|---|
| E | ・レベルアップポイントに応じた課題を見付け、友達に合ったやり方を提案したり、実際にやって見せたりする。 | |
| F | ・友達のアドバイスを受け入れて、ポイントを意識しながら練習する。 | |
| G | ・レベルアップポイントを参考に、よかった点に気付き、自分から進んでグループの友達に伝える。 | |
| H | ・友達の意見を参考に、グループとしての課題を見付け、レベルアップするための方法を提案する。 | |
| I | ・出された課題について、自分の意見を出したり、友達の意見を聞いたりして、レベルアップするための方法を考える。 | |

評価について：○本時の目標に迫っている　　△：支援、手立ての改善が必要である

(3) 展開

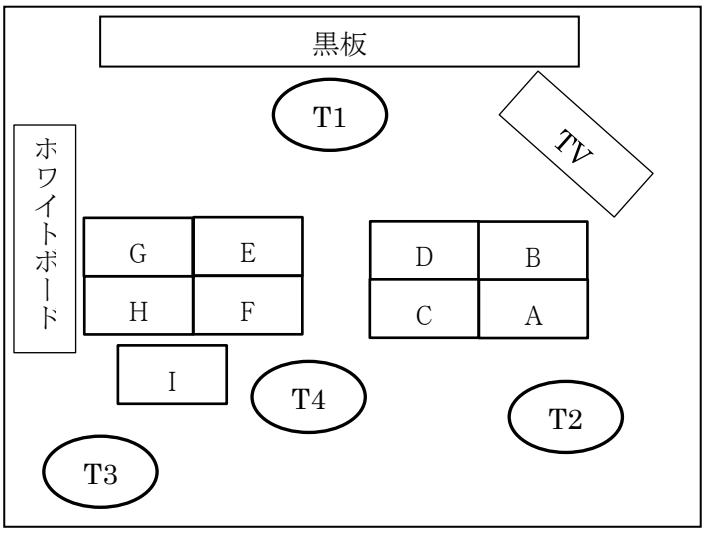
| 段階 | 学習活動 | 指導上の手立て（○）、伝える力に係る手立て（◇） | 準備物 |
|---|---|---|---|
| 導　入<br>（５分） | １　本時の活動内容について知る。（５分） | ○本時の学習の流れとめあてを板書しておく。 | 学習予定表<br>めあてカード<br>レベルアップポイント<br>電子黒板<br>大型テレビ<br>iPad<br>HDMIケーブル<br>ワークシート<br>レベルアップシート<br>ペン<br>ホワイトボード<br>(2) |
| | 〈本時のめあて〉「小学部４、５年生を楽しませるために、読み聞かせをレベルアップさせる方法を考えよう。」 | | |
| 展　開<br>(30 分) | ２　前時の動画を見ながら、自分たちの読み聞かせのよかった点や課題を書き、意見を出し合う。（２０分）<br>※グループ活動 | ○どの部分に着目して動画の視聴をすればよいかが分かるように、レベルアップポイントを掲示する。（Ｔ１）<br>○よかった点や課題などの意見を共有できるように、意見を整理するレベルアップシートを用意し、ホワイトボードに掲示する。（Ｔ２）<br>○生徒が自分の考えをまとめ、意見を出すことができるようにワークシートと付箋を用意する。(Ｔ2)<br>○他のグループからの意見を読み聞かせに生かすことができるように、グループから出されたよかった点や課題をまとめた表を出す。（Ｔ２、Ｔ４） | |
| | ３　課題に応じた練習をする。（１０分）<br>※グループ活動 | ○話合いの中で出された課題に対し、改善につなげることができるように、その場で改善案を生かした練習を行う機会を設定する。（Ｔ３）<br>○生徒が何を学び、レベルアップできたかどうかに気付くことができるように、練習前と練習後の動画を見る時間を設定する。（Ｔ２、Ｔ３） | |
| まとめ<br>（１５分） | ４　活動のまとめをする。<br>・練習の様子を撮影した動画を見て、レベルアップした点を発表する。（１５分）<br>※グループ活動 | ○次時の学習に意欲をもてるように、読み聞かせ会の期日を問い掛け、よりよい読み聞かせ会になるように話をする。（Ｔ２、Ｔ４）<br><br>【それいけ！読み聞かせ隊】　３年１組教室<br>☆Ｄ、Ａ、Ｂ、Ｃ（T2）<br>（☆はリーダー兼司会）<br>◇Ｄが自分から進んで発言できるように、話し方の例文を掲示しておく。<br>○Ｄが友達の意見を受け入れようとする気持ちを高めることができるように、話合いの目的を伝える。 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ◇Ｃがレベルアップする方法を友達に伝えることができるように、中学部の読み聞かせで行った経験を思い出せるような発問をしたり、話をするきっかけとなる声掛けをしたりする。<br>◇Ａが友達のよかった点や課題に気付き、発表することができるように、動画を見る視点（レベルアップポイント）や話し方の例文を掲示しておく。<br>◇Ｂが友達のよかった点に気付き、自分から友達に伝えることができるように、動画を見る視点（レベルアップポイント）や発表の見本を書いたカードを机上に置く。<br><br>【ごきげんよう絵本隊】　２Ｆ学習室<br>☆Ｅ、Ｆ、Ｇ、Ｈ、Ｉ（T3、T4）<br>（☆はリーダー兼司会）<br>◇Ｅが友達に合ったやり方を提案できるように、「〇〇さんならどうしたらよいかな。」などと声を掛ける。<br>◇Ｈが友達の意見を参考に課題を考えることができるように、出された意見をレベルアップシートに掲示する。<br>◇Ｇがよかった点やレベルアップする方法に気付けるように、実際の場面を示す。<br>◇Ｆがアドバイスを受け入れ、ポイントを意識して練習できるように、ポイントを端的な言葉でホワイトボードに記入し、提示する。<br>（Ｔ４）<br>◇Ｉが相手の意見を聞いてから発言できるように、話合いのルールを事前に伝える。 | |

(4) 配置図や教材

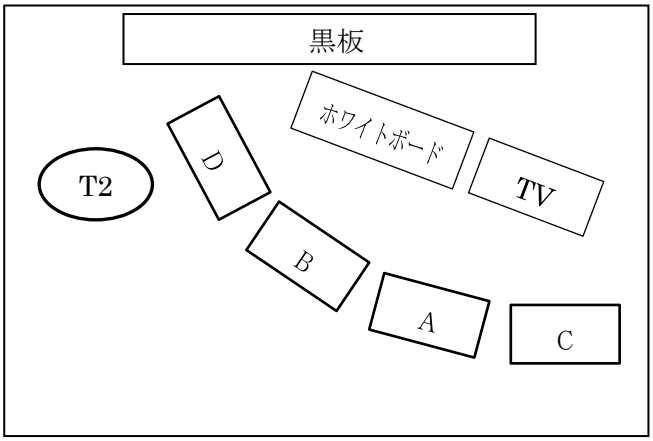
〈学習活動１〉

３年１組教室

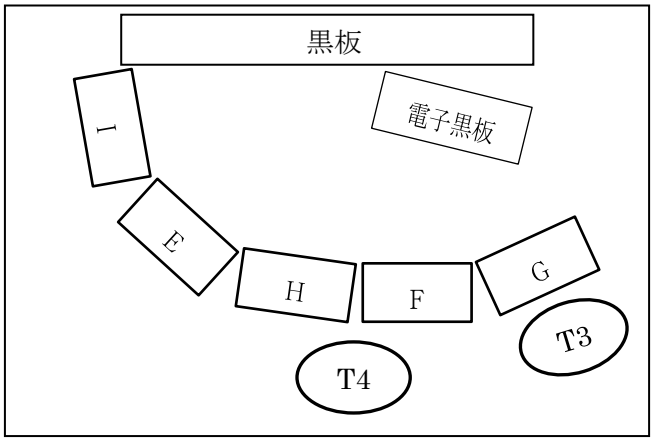



〈学習活動２、３、４〉

３年１組教室　それいけ！読み聞かせ隊




２Ｆ学習室　ごきげんよう絵本隊




(5) 評価の観点

| | |
|---|---|
| 生徒 | ・レベルアップポイントを意識し、よかった点や課題を自分から発表することができたか。<br>・相手がより楽しめる読み聞かせにするための方法を考えて練習することができたか。 |
| 教師 | ・レベルアップポイントを意識して考えたり、自分の考えを友達に伝えたりするための手立ては適切であったか。<br>・友達のよいところを認め合ったり、お互いの意見をもとにレベルアップするための方法を考えたりするための手立ては適切であったか。 |

【授業者から】

本単元は、横手のために役立ちたいという生徒たちの思いから立ち上げた「I Love 横手に役立ち隊プロジェクト」の一つであり、本校小学部の児童を楽しませるために読み聞かせ活動を行う。

本学習集団は、コミュニケーション面の実態に差があるものの、全員が言葉によるコミュニケーションが可能である。一方で、自分の意見を一方的に通そうとしたり、発言することに対して消極的だったりする姿も見られる。そこで本単元では、絵本の選択や読み聞かせの方法の検討、役割分担、練習、振り返り等の一連の活動を４、５名の小グループで行い、自分の意見を友達に伝えたり、友達の意見を受け入れたりするやりとりを通して互いを認め合い、助け合って活動する姿勢を目指した。その際、小グループ内での生徒同士の意見交換が目的に向かって円滑に行われるように、毎時間の活動のゴールをポイントとして示し、付箋紙を活用した話合い活動を取り入れた。

【グループ協議から】○成果　●課題　☆改善案

○小グループでの活動にすることで、発言しやすい雰囲気ができていた。

○動画を見る際のポイントが示されており、生徒が気付いたことを発表することができていた。

○付箋紙を活用したことで、意見を整理して伝えることができていた。また、視覚的にも伝わりやすい。

●話合い活動での教師の介入がやや多い。

●本時で示されている「レベルアップポイント」は、よい読み聞かせを目指す上では重要なことだが、単元の目的である「小学部４、５年生を楽しませる」こととのつながりが弱い。

●読み聞かせの相手である「小学部４、５年生を楽しませる」ことに、生徒がより意識を向けられるような工夫が必要。

☆生徒同士の主体的なやりとりをねらい、話合い活動での教師の介入を減らしていく。

☆教師が示していた「レベルアップポイント」を生徒自身から提案することができるように、読み聞かせボランティアの方々の読み聞かせを見聞きする機会を作ったり、相手の反応が分かる練習の機会を設定したりする。

【指導助言】

・活動の様子を見ていると、もう少し教師の介入の手を減らしても大丈夫なのではないかと感じた。

・読み聞かせ活動では、相手意識が重要となる。生徒が練習のときから小学部４、５年生をどこまで想定できているか、意識できているかということが大切。指導案上の本時の目標、めあて、評価を見比べたときに、「小学部４、５年生を楽しませる」という単元の目的が薄くなってしまっている。

・レベルアップポイントを生徒自身がどれくらい理解していたか。もう少し生徒にとって分かりやすい指標があれば、それを目標にして生徒が取り組めるのではないか。また、レベルアップシートに「楽しかったところ」というカテゴリーがあれば、相手を楽しませるためにどんなことをしたらいいか自由な発想が生まれ、相手意識にもつながるのではないか。

・本時の学びが一人一人に積み重なるように振り返りを行ってほしい。板書は消えてしまうので、ノートやワークシートに記録する学習活動も検討してみてほしい。

・本単元は国語科の指導内容を取り扱う要素が強い。生徒達の国語的な見方・考え方をどう育てていくか、国語の授業で指導する内容とどのように使い分けるか等も検討していってほしい。

【単元を通して有効だった手立てと生徒の姿】

・単元の導入として小学部４、５年生との交流会を行い、実際にふれあったことで、その後の話合い活動の中で、「○○のせりふはみんなが喜ぶように、本物を意識して読んでみよう」など、聞き手に喜んでもらえるような工夫を、生徒自身が考えて読み聞かせの練習に取り入れることができた。

・付箋紙を活用した話合い活動を行うことで、発言することに苦手意識をもっている生徒も自分の意見を書いて整理してから友達に伝えることができた。

・声の大きさや読む速さ、みんなでせりふを言うために「せーの」と掛け声を掛けることなど、読み聞かせを上達させるための「レベルアップポイント」を提示したことで、ポイントを意識した読み方ができるようになった。

・活動の振り返りとして、その日の自分たちの読み聞かせの様子と前時の様子を動画で比較することによって、自分や友達のよくなっているところに気付いたり、課題を見つけたりすることができた。

**高等部の成果と課題（〇：成果、●：課題）**

（１）「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を明確にできる導入

〇単元全体を見通すことのできる予定表の提示により、本時や小単元で何をするのかを生徒自身が考え、行動した。また、授業の導入時に本時のゴールを伝えることで、本時に見通しをもって取り組んだ。

〇小学部児童に読み聞かせをする単元の導入に小学部生との交流会をするなど、単元の導入で、関わる相手と実際に関わることで、相手のためにという目的意識をもって行動する姿が見られた。

●意欲的に取り組むための手段として、目標やめあてを数値化や具体化できない場合、意識のもたせ方や、「なぜ」「何のために」という必要性の理解を強化する。

（２）学んだことを活用できるための学習活動の組み立てと手立て

〇「横手が舞台」として、他学部の児童生徒と一緒に活動する機会や地域での学びを設定することにより、生徒の学習意欲につながるとともに、「学んだことを伝えるために相手に分かりやすいように工夫しよう」とする思考が自然と出るようになった。また、この思考が他教科等においても見られるようになった。

〇タブレット型端末（iPad）の使用により、苦手意識を克服して意欲的に参加する生徒や、写真や動画等の視聴によってこれから作るもののデザインについてや、友達や自分が読み聞かせをした際の改善点についてなど具体的なイメージをもつ生徒が増えた。具体的なイメージをもつことで、意見交換をする際に、自分の意見に自信をもって伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができていた。

●言葉による意思疎通が難しい生徒の学習活動の設定や「伝える」姿を具体化して共通理解する。

●単元を通してつながった横手の地域や学んだ内容がその年の単元のみになってしまわないよう、つながりを継続する。

●同じような学習活動でも、中学部での学習との違いや発展性をもたせるための工夫や教材研究に励む。

（３）学びを実感できる振り返りや単元のまとめ

〇単元としての学びの成果について、学級外の友達や教師から評価をもらうことでより達成感を感じられた。

〇生活単元学習における新聞や掲示物作り、発表活動の設定の他に、他教科等の学習を通じて、言葉や写真での振り返りやまとめでの理解が深まった。

〇ホワイトボード、付箋紙、デザインカード等の視覚的な提示をすることで、考えを整理したり、学習全体の流れを理解したりすることにつながった。

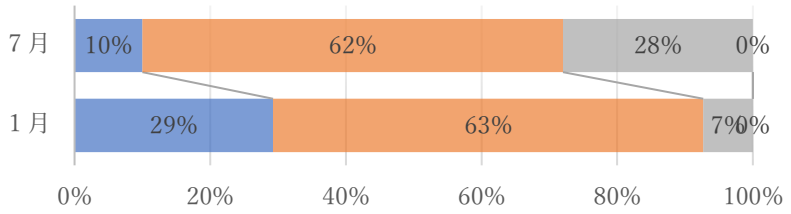
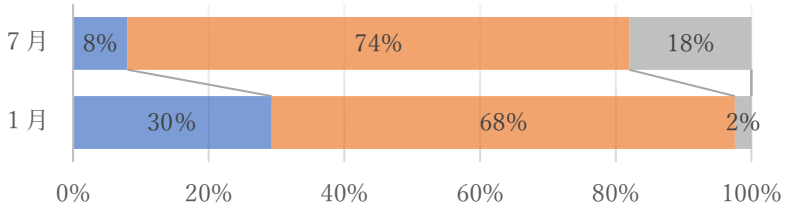
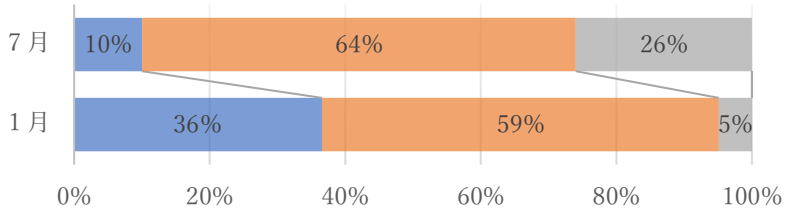
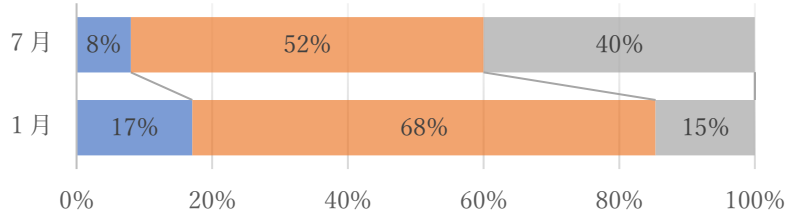
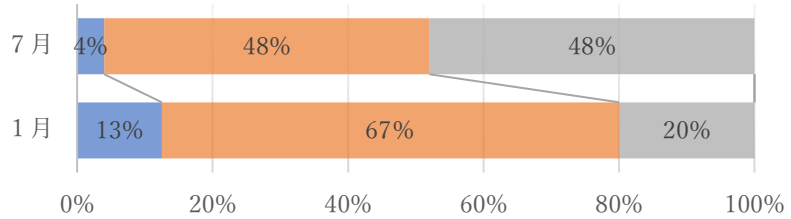
●学びを実感できたかどうか推し量ることが難しい生徒から、自分の言葉で振り返りができる生徒まで、一人一人の単元の中で実現したい学びの姿がどのような姿なのかを具体的にイメージして、学習活動を設定する。

●スモールステップを踏んでいること、小単元の学びが単元全体の学びにつながっていることを実感できるように、小単元としての学びの成果を分かりやすく、生徒にフィードバックする。

# 〈第三部〉

# 評価・検証

1　研究評価アンケートから

| | |
|---|---|
| ①児童生徒は、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を意識して学習に取組んでいる。 |  |
| ②児童生徒は、学習で使われている言葉（学習内容、学習活動、めあてに含まれる言葉や道具の名称等）の意味や使い方を理解して活用している。 |  |
| ③児童生徒は、学習を通して感じたことや考えたことを、言葉と結びつけて自分なりに表現したり、自分の言葉や文で表現したりしている。 |  |
| ④児童生徒は、「何を学んだか」「何ができるようになったか」「何が分かったか」に気付き、理解している。 |  |
| ⑤児童生徒は、学習したことを自分の生活や体験とむすびつけて考えるなど、既習の学習で身に付けた資質・能力を活用している。 |  |

| | 小 | 中 | 高 | 全体 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 平均 | 増減 |
| ① | ２．７２ | ３．２３ | ２．６３ | ２．８２ | ＋０．４０ |
| | ３．４０ | ３．３３ | ３．００ | ３．２２ | |
| ② | ２．８３ | ３．１５ | ２．７９ | ２．９０ | ＋０．３７ |
| | ３．４７ | ３．３３ | ３．０６ | ３．２７ | |
| ③ | ２．７８ | ２．７７ | ２．９５ | ２．８４ | ＋０．４８ |
| | ３．５３ | ３．２２ | ３．１８ | ３．３２ | |
| ④ | ２．６７ | ２．８４ | ２．５８ | ２．６８ | ＋０．３４ |
| | ３．１３ | ３．００ | ２．９４ | ３．０２ | |
| ⑤ | ２．６１ | ２．６１ | ２．４７ | ２．６８ | ＋０．２５ |
| | ２．９３ | ３．００ | ２．８８ | ２．９３ | |

よくできた４点　できた３点　もう少し２点　ほとんどできていない１点として平均値を算出した。各項目の上段が７月（１回目）の平均値、下段が１月（２回目）の平均値である。

２　考察

○全ての項目について、７月に比べて向上していると言える。

○①については、めあての内容や示す言葉をねらいと児童生徒の実態に合わせて吟味し、提示の仕方を工夫することによって、児童生徒がより理解しイメージを共有できるものになっていったこと、児童生徒がめあてを達成するためのポイントとなる事柄をキーワードとして提示するなどの手立てが講じられた成果と考えられる。

●整合性のとれたねらいとめあて、まとめや振り返りの仕方についてはその都度熟考し最適なものを検討していくことが必要である。

○「思いや学んだことを伝える力」に直接関わる力（②③）について、１月は「よくできた」と「できた」の評価を合わせて１００％に近い評価を得た。児童生徒が言葉を使って思考したり、表現したりする場面や活動を意図的、意識的、効果的に設定してきたことの成果と考えられる。また、児童生徒自身も発言や表現することに慣れ、積極的に発言し、伝えるために思考、工夫する姿が見られるようになった。

○④については、小学部で特に大きな向上が見られた。毎時間同じ形で振り返りを行ったり、定着を図るため様々な形で振り返りを繰り返したり、客観的に評価できる振り返りを工夫したりしたことによる成果と考えられる。

●振り返りの時間を十分に確保し、黒板等に残った学習の足跡を活用しながら、めあてに沿ったまとめや振り返りを行うことによって、児童生徒一人一人の理解を深めていきたい。

●⑤の評価が他に比べて低かったことについては、前時に学んだことを次時に思い出したり、活用したりして授業の中で結びつけて考えたり、学びを深めたりすることも含まれるということの職員の理解が不十分であったことが考えられる。研究概要の説明等において丁寧に説明する必要があった。そのことを踏まえれば評価は上がったものと考えられる。

＜参考：自由記述より（思いや学んだことを伝える姿）＞

＜小学部＞

○学習したことや経験したことを実物や写真を見て思い出し、言葉や身振りで「何をしたか」「楽しかった」「またやりたい」などを伝えた。

○かまくらを題材とした絵本の読み聞かせや劇遊びを通して、冬という季節に関する言葉やかまくらまつりにちなんだ言葉を覚え、友達とのやりとりを楽しんだ。

○体験してきたこと（校外学習）などを振り返り、経験したことを思い出して、それに重ねて伝えようとしたり、自分なりに表現して気持ちを伝えようとしたりした。継続したり繰り返したりしたことで「言葉で伝える」、「言葉を聞く」「見て話す」などの態度が育ち、普段から意識して活動したり、友達のよいところを伝えるたりすることが増えた。

○クイズ大会を小単元の最後に行う活動を繰り返す中で、学んだことをどうクイズにしたら面白くなるか、自分なりに問題の選択肢を考え書き、様々な人の前で自信をもって発表した。

○自分で知りたいことを大きな声でインタビューしたり、聞き取ったことをクイズにしてはりきって出題した。

○学習で「何を勉強したか、何をしたか」や「どんなことを頑張ったか、工夫したか」を自分で考えて発表するようになった。

○相手に喜んでもらうために、自分のがんばることが分かったり、見せ方や作る道具を「おもしろくする」方法を考えたりした。

○動画等で客観的に振り返り、自分や友達についての気付きや思いを言葉、丸、花丸で表現できた。

○振り返りで自分が頑張ったことを選択肢を参考にして話したり、発問に対して簡単な言葉で答えたりするようになってきた。
＜中学部＞
○読み手、相手のことを考えた書き方のポイントを意識して、ゆっくり書いたり、手元を見ながら字をなぞったりできた。
○様々な紹介したい「横手」について、自分が考えたことをスライドショーにまとめた。
○自分が学んだことや調べたことを新聞にしてたくさんの人に見てもらおうと工夫して創作した。
○インターネットから調べたことをクイズにして発表し、質問されたことに自分の言葉で答えた。
○他のクラスの生徒がどうしたら楽しんで聞いてくれるか、学んだことのキーワードを伝える方法は何かを考え、「クイズ形式にしたら」「キャラクターになりきってみよう」など工夫しようとした。回を重ねるごとに「次回の発表はこうしたい」「トマトの収穫は前回話したから、今回はあきたこまちにしよう」など内容に関する具体的な意見も出すようになった。
○国語で学習した表現方法や他の学習場面で身に付けたプレゼンテーションソフトでのスライド作成技術を生かし、分かったことをより分かりやすく表現する工夫をした。
○自分の求めた水準への達成を自己評価したり、仲間のアドバイスから他者評価を得たりして、「分かりやすい発表をしたい」「楽しんでもらえる発表がしたい」という言葉が目標にあがるようになった。
○生活単元学習で行っていることがどう地域と結びついているかをまとめ地域の方へ発表できた。
●発信力は鍛えられたが、受信力である聞く力、相手の意図を感じ取る力の育成の重要性を感じる。
＜高等部＞
○制作活動も調べ学習も自分で決めた活動に繰り返し取り組んだことで、達成度合いが分かり、何のために何をしてどうなったか、自分の言葉で振り返ることができた。
○フラワープロジェクトの学習についての発表では、伝えるポイントや伝え方など自分たちで考えて準備ができた。
○ろうそく作りの目標個数を考え、自分たちで「めあて」を決めたり、分からないことや疑問についても伝えたりすることができた。
○学んだことを後輩、地域の方に発表したり、インターネット等で伝えたりした。
○自分たちが見たこと、体験したこと、気付いたことを、分かりやすい写真を選んだり、発表方法を考えたりして伝えていた。繰り返し同じような活動をすることでパターンを覚え、「こうすればいい（相手に伝わる）」という気付きも見られた。
○「横手を大きく学ぼう」で自分たちの地域について学んだことを県南３校交流で他校へリモートで伝えたり、学校祭での発表で表現したりできた。
○相手に分かるように伝えるためには、どんな話し方や資料の準備、どんな表し方で伝えたらよいか考えて取り組んだ。
○生徒によっては、人に改まって伝えるということが恥ずかしいと感じる人もいるが、修学旅行などの学習で、楽しかった、新しい体験だったと生徒自身が実感できたことで、恥ずかしがらずに伝えようとした。
○話合い活動などの場面で自分の意見を自分から発言することが増えた。
○リモート交流や学校祭での発表を通して、相手に伝えるためにどうすればよいかを考えることができた。

○自信のなさから伝えることに消極的な生徒も多いが、環境によっては自分から発言することもある。
○クリーンアップ活動について伝える新聞づくりでは、「なぜごみを捨てるのか」について、活動の経験を基に考え、自分たちの意見を記事に書くことができた。
○相手を意識したり、場面を考えて行動したり、発言したりするようになってきた。
○過去に同様の学習に取り組んだことを基に、どうしたら下級生が喜ぶかを見据えた意見を発言することができた。
○小学部生への読み聞かせ活動を通して、小さな子に分かりやすく伝えるためには、話すスピード、抑揚等が大切であることを学び、保育園での職場実習で実践した。
○授業後に学んだことを教師に伝える。制作物を介して自分の取組を伝えてくることがあった。
●自分の思いなどはしっかりともっているが、伝える場面になると考えをまとめることが難しく、うまく伝えることができない姿が何度か見られた。
●自閉的傾向の生徒は特に、数値化できない「気が付いて」「自分の言葉で」が難しく、いつも決めぜりふで終わっていることが多く、深く聞くと答えられないことも多い。
●考えや思いがまとまらず、まだ自分の思いや考えを伝える力が十分ついていない。
●「学んだことを伝える」からさらにステップアップした姿を期待したい。

3　今年度の成果と課題

○各学部で児童生徒が「伝えたい」と感じる学びのある「横手が舞台」の授業を展開し、児童生徒は学んだことをアウトプットする経験を通して、地域への理解を深めたり、貢献したりすることができた。研究評価シートの結果からも児童生徒の「思いや学んだことを伝える力」は向上したと評価できる。この力は「何を学んだか」「何ができるようになったか」を理解し、活用する力の一つであり、「横手が舞台」の学習で育てたい資質・能力が児童生徒に身に付いたことを表していると考える。

○昨年度と今年度の取組を通して、生活単元学習における「横手が舞台」の学部間・学年間のつながりや系統性及び、小学部から高等部までの 12 年間の各段階で育てたい資質・能力の方向性も明らかになった。これらを基に、年間指導計画や授業計画を作成し、実践を重ねていくことで、児童生徒の資質・能力はらせん状に積み重なり、深まり、将来地域の中で自立的な生活を送る力を育むことができると考える。

●ねらいとめあて、振り返りやまとめの整合性のとれた授業が、児童生徒が「何を学んだか」「何ができるようになったか」という学びを実感し、資質・能力を確実に身に付け、学びを深化させていくために必要不可欠である。授業のゴールであるまとめからめあてを考える授業づくり、振り返りの在り方など、精錬した授業を目指し、全校で基礎基本を押さえた授業づくりを進めていきたい。

●12 年間の各段階で育てたい資質・能力やそのつながりに見通しをもって、該当学年の学習内容を計画し実践していけるよう、今年度の成果を来年の指導計画等に生かしたい。

# あ　と　が　き

今年度本校では、「思いや学んだことを伝える力を育む授業づくり」をテーマに、昨年度から継続して地域資源を活用した学習を取り上げ、研究を進めて参りました。昨年度の研究でまとめた「横手が舞台（地域資源を活用した学習）」系統表を活用し、「ふれる（小学部）」「かかわる（中学部）」「たかめあう（高等部）」のキーワードを基に、各学部で単元・題材の選択や構成を工夫しました。また、地域のことを「知る」、地域について「発信する」、地域のために「貢献する」という学びの段階を意識して活動を設定することで、各学部・学級で特色のある活動が展開できたこと、各活動の中で子どもたちが生き生きと自信をもって活動する姿や主体的に取り組む姿、仲間と共に考え周囲へ自分の思いを「伝えよう」とする姿が見られたことは研究の成果と捉えています。

今年度は特に、この「伝える力」に焦点を当て検証を重ねてきました。子どもたちの「伝える力」を育むために、「伝えたい」という気持ちがもてる興味関心の高い単元づくりや、「伝わる」ために必要なことについて、子ども同士で考える場面を大切にした授業づくりを単元構想の段階から検討し、実践してきました。一学級一授業を基本に行った授業研究では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになったか」という視点で子どもの姿を振り返り、授業改善につなげました。その中で、「伝える力」を育むためには「伝える」という一方向の関わりではなく、「伝わる」という相手と気持ちを共有する双方向の関わりを意識することや、そのための手段（何を学ぶか、学習をとおし何ができるようになったか）を児童生徒一人一人が理解することが重要であることを確認しました。「伝わる」方法を教える場面と、子どもたち自身で思考し、判断する場面を単元や一単位授業の中で効果的に配置し関連させて指導することで、子どもたち自身が「伝わる」方法に気付き、自分から表現できるようになる姿が見られました。

ことば、表情、身振り、動作・・・。「伝える」手段は様々な子どもたちですが、「伝わった」という体験の積み重ねが、もっと「伝えたい」という意欲につながり、学ぶことの楽しさや意義を実感することにつながるのではないかと考えます。地域という魅力的な題材を基に自分の思いを「伝える力」を育み、「伝わった」ことをが実感できる学びを、この後も目指していきたいと考えています。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、秋田県立大曲支援学校せんぼく校　佐々木義範　副校長先生、秋田県立大曲支援学校　大沢貴子　教頭先生、秋田県立稲川支援学校　高橋和恵　教頭先生からたくさんの御指導、御助言を頂戴し、授業づくり、授業改善に生かすことができました。誠にありがとうございました。

併せて、本紀要を御高覧いただきました皆様より、忌憚のない御意見･御指導をいただきますようお願い申し上げます。

教頭　　阿部　裕子

# 研究に携わった職員（令和２年度）

校　長　　松　井　克　彦　　教　頭　　熊　谷　　司　　教　頭　　佐々木　　誠

事務長　　富　樫　一　男　　教育専門監　菅 原　咲希子

**（小学部）**

谷　口　和　江
岸　　英　子
熊　谷　淳　晴
高　山　知　子
照　井　聖　子
佐　藤　深　雪
堅　持　夕　子
大　川　浩　平（研究主任）
佐々木　麗　子（研究部）
森　　愛　子
小　西　美　穂（研究部）
菅　　優　子
髙　橋　由　衣
高　橋　裕　子
高　橋　　栞
遠　藤　千愛美
高　井　哉　子
守　屋　充　敬
佐　藤　潤　也
鈴　木　圭　太
小　野　敬　子

**（中学部）**

時　田　　航
高　橋　知希子
今　野　洋　美
瀬　戸　実枝子
藤　田　亜貴子
会　場　一　幸
小　西　ゆり子
遠　山　成　子
藤　谷　淳　一
熊　谷　道　大
後　藤　ゆり子
青　木　真知子
佐々木　詠　吏
内　藤　聖　子（研究部）
守　屋　　美（研究部）
大　沼　美和子
水　田　勝　久
鈴　木　里　美
小　椋　トモ子
鈴　木　　徹
安　達　由美子
菅　原　美奈子

**（高等部）**

髙　橋　和　恵
佐　藤　　恵
朝　倉　知　司
籠　山　　誠
鈴　木　朋　子
池　部　和　美
高　橋　静　香
近　　亜希子
柴　田　　豪
菊　池　牧　子
鈴　木　　顕（研究部）
佐々木　　祐
岩　澤　有希子
櫻　田　菜　保
藤　平　裕　太
工　藤　　彩（研究部）
菅　原　美　智
菅　生　真由子
小　玉　奈　月
佐々木　慶　明
佐々木　　修
阿　部　隆　文
中　川　浩　孝
古　関　綾　子
赤　坂　千　春
妻　野　聖　花（研究部）
須　田　　裕
髙　橋　美　裕
松　岡　　一

# 研究に携わった職員（令和３年度）

校　長　　松　井　克　彦　　教　頭　　阿　部　裕　子　　教　頭　　煙　山　正　信

事務長　　富　樫　一　男　　教育専門監　菅 原　咲希子

**（小学部）**

谷　口　和　江
岸　　英　子
熊　谷　淳　晴
高　山　知　子
照　井　聖　子
若　生　友　樹
佐　藤　深　雪
大　川　浩　平（研究部）
佐々木　麗　子
森　　愛　子
小　西　美　穂（研究主任）
菅　　優　子
佐々木　詠　吏
髙　橋　由　衣
高　橋　　栞（研究部）
遠　藤　千愛美
高　井　哉　子
鈴　木　圭　太
佐　藤　　理
鎌　田　大　凱
落　合　咲　子
小　野　敬　子
菅　原　美奈子

**（中学部）**

高　橋　知希子
今　野　洋　美
伊　藤　由　紀
藤　田　亜貴子
会　場　一　幸
小　西　ゆり子
堅　持　夕　子
遠　山　成　子（研究部）
熊　谷　道　大
後　藤　ゆり子
柴　田　秀　幸（研究部）
高　橋　裕　子
守　屋　　美
大　沼　美和子
須　田　　裕
丸　田　勇　帆
小　椋　トモ子
鈴　木　　徹
安　達　由美子

**（高等部）**

時　田　　航
佐　藤　　恵
朝　倉　知　司
籠　山　　誠
池　部　和　美
水　谷　智　子
高　橋　静　香
近　　亜希子
柴　田　　豪
青　木　真知子
菊　池　牧　子
佐々木　　祐
遠　藤　奈津子
岩　澤　有希子（研究部）
内　藤　聖　子（研究部）
藤　平　裕　太
工　藤　　彩（研究部）
菅　生　真由子
小　玉　奈　月
佐々木　慶　明
佐々木　　修
沓　澤　直　樹
山　本　智栄子
中　川　浩　孝
水　田　勝　久
古　関　綾　子
守　屋　充　敬
赤　坂　千　春
川　越　佳　子
和　賀　典　子


発行年月日　　令和４年３月２５日
発　行　所　　秋田県立横手支援学校
〒013-0064　　横手市赤坂字仁坂 105 番地 1
TEL　0182-33-4166　FAX 0182-33-4266（小・中学部）
TEL　0182-33-4167　FAX 0182-33-4277（高等部）
Email:yokote-s@akita-pref.ed.jp
http://www.yokote-s.akita-pref.ed.jp